

平成 27 年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

認知症サポーター等の資質向上に関する
調査研究事業
報 告 書

平成 28 年 3 月

特定非営利活動法人 地域ケア政策ネットワーク
全国キャラバン・メイト連絡協議会

I.事業の目的

(1) 認知症サポーターが果たしている役割

平成 17 年度に「認知症サポーターキャラバン」が開始してから 10 年以上が経過し、平成 27 年度末時点ですでに全国に約 750 万人を超える認知症サポーターが養成されている。

認知症サポーター養成講座を受けた認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者である。

決して「なにか」特別なことをする決まりはない。偏見をもたずに接することからスタートし、その上で各々ができる手助けをしていくこととしている。

それにもかかわらず、事業開始当初から認知症についての正しい知識を得ることを契機に、地域や職域の認知症サポーターにより、認知症の人への具体的な支援を実践する活動が自主的に発生し、全国各地で展開されている。

このような自然発生的な“活動する”認知症サポーターの取り組みの中には、認知症の人の日常生活を支え、住み慣れた地域での生活の継続に有用な社会資源へ結びつく例も多い。

2025 年には高齢者の 5 人に 1 人、全国で 700 万人にのぼるとされる認知症の人の暮らしを地域で支えていくためには、近隣住民・地域で働く人たちの理解とちょっとした支援が不可欠な社会資源となると考えられる。

(2) 資質向上に役立つステップアップ講座へ向けて

各種の実践活動に際しては、自治体ごとに認知症サポーター養成講座からステップアップした、さらなる知識向上の学習会、実践活動に向けた実技演習等、認知症サポーターのための講座が開催されている。

認知症サポーターの中には、さらなる知識向上や認知症の人を支援するためのスキル向上を図る学習機会を得ることで、身近な地域で具体的な支援を実践する役割を果たせる人たちが多数いると期待される。

まず、現在全国の認知症サポーターがどのような活動を実践しているのか、その活動が地域においてどのような役割を果たしているのかを詳らかにする。

その上で、現在、認知症サポーターが必要としている知識・情報及び学習体系を検討し、認知症サポーターのステップアップ講座教材の作成を行う。

〈調査の概要〉

平成 27 年 10 月に、全国キャラバン・メイト連絡協議会から認知症サポーターキャラバン事業を実施する都道府県、市区町村 1,713 自治体に向けて、認知症サポーターの活動に関するアンケートを実施した。平成 28 年 2 月時点で集約された 1,301 自治体の数値に基づき、結果をまとめている。

(アンケート様式 巻末)

II. 調査の結果

1. 認知症サポーターの登録制度について

ー〈登録制度がある〉が 227 自治体ー

認知症サポーターの登録制度については、「サポーター講座受講者全員を登録」が 78 自治体、「サポーター養成講座のうち承諾を得られた人（希望者）を登録」が 149 自治体あり、合わせるとサポーターの〈登録制度がある〉自治体が 227 を数える。

全員を登録している場合のしくみについては、“受講者名簿を登録（管理）”というパターンが最も多い。また希望者を登録というところでは、“受講後のアンケートで確認”や“登録用紙（名簿）に記入した人を登録”といったケースが多い。

【登録制度のある自治体一覧】

北海道札幌市	秋田県	埼玉県上尾市
北海道釧路市	秋田県男鹿市	埼玉県草加市
北海道帯広市	秋田県湯沢市	埼玉県戸田市
北海道北見市	秋田県仙北市	埼玉県和光市
北海道岩見沢市	秋田県三種町	埼玉県美里町
北海道苫小牧市	秋田県羽後町	千葉県松戸市
北海道美唄市	山形県山形市	千葉県茂原市
北海道江別市	山形県酒田市	千葉県東金市
北海道名寄市	山形県金山町	千葉県八千代市
北海道歌志内市	山形県真室川町	千葉県印西市
北海道当別町	山形県遊佐町	東京都千代田区
北海道新篠津村	福島県白河市	東京都新宿区
北海道八雲町	福島県須賀川市	東京都文京区
北海道寿都町	福島県桑折町	東京都墨田区
北海道奈井江町	福島県会津美里町	東京都北区
北海道長沼町	福島県古殿町	東京都板橋区
北海道上川町	福島県葛尾村	東京都立川市
北海道美幌町	茨城県土浦市	東京都武蔵野市
北海道安平町	茨城県古河市	東京都三鷹市
北海道むかわ町	茨城県高萩市	東京都府中市
北海道平取町	茨城県つくば市	東京都町田市
北海道広尾町	茨城県筑西市	東京都東大和市
北海道豊頃町	茨城県小美玉市	東京都西東京市
北海道別海町	茨城県東海村	神奈川県大磯町

青森県弘前市	栃木県足利市	新潟県加茂市
青森県鱒ヶ沢町	栃木県佐野市	新潟県十日町市
青森県藤崎町	栃木県日光市	新潟県妙高市
青森県横浜町	栃木県益子町	新潟県阿賀野市
青森県六ヶ所村	群馬県伊勢崎市	富山県滑川市
岩手県盛岡市	群馬県沼田市	富山県黒部市
岩手県大槌町	群馬県渋川市	富山県南砺市
岩手県岩泉町	群馬県吉岡町	福井県
岩手県軽米町	群馬県昭和村	福井県福井市
宮城県村田町	群馬県千代田町	福井県小浜市
宮城県柴田町	埼玉県熊谷市	福井県あわら市
宮城県亘理町	埼玉県加須市	福井県坂井市
宮城県大和町	埼玉県狭山市	福井県永平寺町
宮城県大郷町	埼玉県鴻巣市	山梨県身延町
長野県駒ヶ根市	大阪府能勢町	福岡県北九州市
長野県御代田町	兵庫県相生市	福岡県福岡市
長野県富士見町	兵庫県豊岡市	福岡県田川市
岐阜県岐阜市	兵庫県赤穂市	福岡県大川市
岐阜県中津川市	兵庫県西脇市	福岡県豊前市
岐阜県山県市	兵庫県三木市	福岡県太宰府市
岐阜県海津市	兵庫県篠山市	福岡県福津市
岐阜県大野町	兵庫県宍粟市	福岡県志免町
静岡県沼津市	奈良県田原本町	福岡県粕屋町
静岡県藤枝市	和歌山県御坊市	福岡県糸田町
愛知県名古屋市	和歌山県紀美野町	福岡県大任町
愛知県瀬戸市	和歌山県印南町	福岡県みやこ町
愛知県半田市	鳥取県鳥取市	佐賀県鹿島市
愛知県春日井市	鳥取県大山町	佐賀県小城市
愛知県刈谷市	鳥取県日南町	佐賀県神埼市
愛知県豊明市	島根県浜田市	長崎県
愛知県日進市	島根県津和野町	長崎県佐世保市
愛知県あま市	岡山県真庭市	熊本県水俣市
愛知県幸田町	岡山県矢掛町	熊本県上天草市
三重県四日市市	広島県呉市	熊本県宇城市
三重県松阪市	広島県熊野町	熊本県天草市
三重県鳥羽市	山口県周南市	熊本県美里町
三重県志摩市	徳島県鳴門市	熊本県南関町
滋賀県彦根市	徳島県美波町	熊本県南阿蘇村
滋賀県草津市	徳島県北島町	熊本県益城町

滋賀県甲良町	香川県高松市	熊本県津奈木町
京都府京都市	香川県観音寺市	大分県中津市
京都府綾部市	香川県土庄町	大分県佐伯市
京都府精華町	香川県小豆島町	大分県豊後大野市
大阪府大阪市	香川県宇多津町	宮崎県宮崎市
大阪府吹田市	香川県琴平町	宮崎県高原町
大阪府 八尾市	香川県まんのう町	鹿児島県阿久根市
大阪府富田林市	愛媛県東温市	鹿児島県出水市
大阪府河内長野市	高知県香南市	鹿児島県西之表市
大阪府大東市	高知県本山町	鹿児島県伊佐市
大阪府高石市	高知県禰原町	鹿児島県さつま町
大阪府東大阪市	高知県日高村	沖縄県名護市
大阪府阪南市	高知県津野町	

2. 認知症サポーターの活動状況について

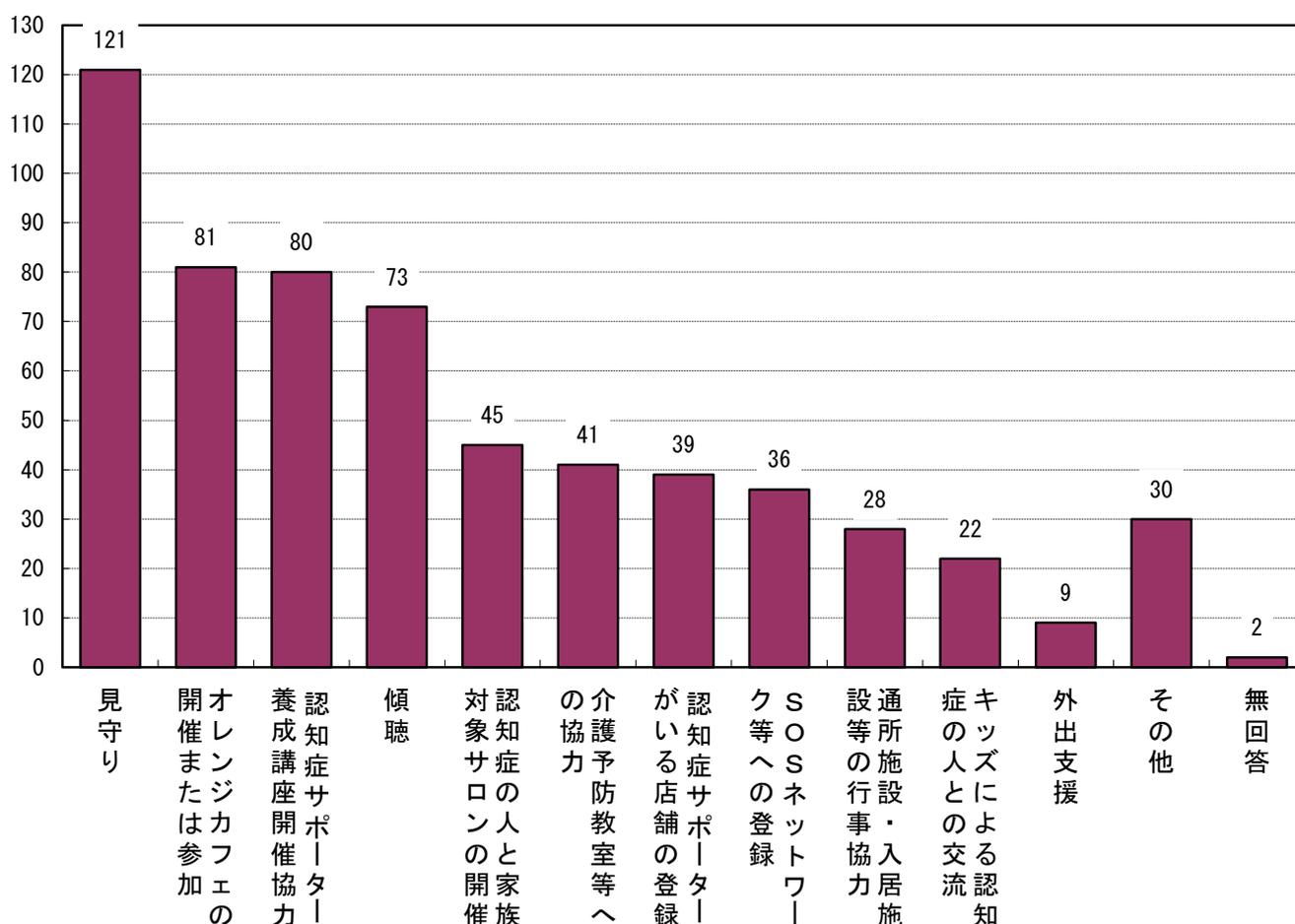
－活動を「把握している」が214自治体 トップは「見守り」－

自治体内における認知症サポーターの活動を把握しているかどうかをたずねたところ、「把握している」が214自治体である。

この214自治体に限定して活動の種類を挙げると、「見守り」が121自治体でトップ、これに「オレンジカフェの開催または参加」が81自治体、「認知症サポーター養成講座の開催協力」が80自治体、「傾聴」が73自治体で続く。

以下、「認知症の人やその家族を対象とするサロンの開催または参加」（45自治体）や「介護予防教室等への協力」（41自治体）、「認知症サポーターがいる店舗の登録」（39自治体）、「SOSネットワーク等への登録」（36自治体）、「通所施設・入居施設等の行事協力」（28自治体）、「キッズサポーター（小中高生）による認知症の人との交流」（22自治体）などとなっている。なお、「その他」については、“徘徊模擬訓練の開催や参加・協力”やイベント等への参加も含めた“啓発・広報活動”、“地域での見守りや声かけ”といったものがみられた。

自治体内における認知症サポーターの活動の種類
（活動を「把握している」場合・複数選択 N=214）



サポーターの活動意欲・学習意欲

「自宅を週1回開放し、ボランティアで居場所を提供し活動している」（香川県多度津町）、「特定の方（認知症、独居）に毎日交代で訪問している（5～6人）」（高知県日高町）等、認知症サポーターの中には地域に役立つ支援を工夫して行っている人たちがいる。

「認知症サポーターの中から希望者が継続研修を受け、あったかサポーターとして、在宅の認知症の人の見守り、話し相手等を行う」（北海道当別町）、「認知症サポーター養成講座を終えた人達の中で希望者を募り、認知症専門ボランティアとして養成している（あんしんメイトと呼ぶ）」（福島県白河市）、「サポーターがさらに研修を受け、認知症協力応援隊員として活動中。隊員がペアとなり、認知症高齢者を訪問し傾聴を行う」（熊本県上天草市）等、認知症サポーターの上級講座を設け、活動するしくみづくりを行っている例では、自治体の施策との連動等、他の自治体にとっても参考となる点が多い。

全国の認知症サポーターたちが、自主的に活動を開始し、さらに知識を得ていこうとする活動意欲、学習意欲が、現在実践されている活動の根底にあることが伺える。

早期発見・対応へつながる相談機関との連携

「地域で認知症が疑われる高齢者の情報を地域包括支援センターへ寄せる」（高知県大豊町他）、「配食ボランティアでは、指定された時間に不在であったりすることが続いたりすることで、ボランティアが不思議に思い地域包括支援センターに繋げることが出来た」（熊本県益城町）等、地域で気になる人があれば、しかるべき相談機関へ情報を提供し、連携を図ることは、全国的に行われている。

地域住民の日常的な情報に精通している認知症サポーターは、地域包括支援センター等からも信頼を得ていると推測される。

「地域からや“のぼり旗”を設置している企業から、気になるケースの相談があがってきている」（熊本県宇城市他）等、「認知症サポーターのいる店舗の登録」を行っている自治体では、地元の企業、店舗等と地域包括支援センターとの連携に結びついている。

その結果「域包括支援センターにつないでもらい、早期受診（MC I 診断）、介護保険申請につながった」（埼玉県皆野町）とあるように、早期発見・対応に役立つ効果も得られている。

オレンジカフェ等への協力

「認知症サポーターは適切な対応、家族への助言ができる」（奈良県橿原市）、「サポーターがカフェ参加者に話しかけたり、聴き役にまわったりを行うことで参加者がカフェの雰囲気になじみやすくなっている」（宮城県亘理町）、「（認知症カフェに認知症サ

ポーターが参加することで) 介護する家族の声を直接聞けるようになった」(宮城県気仙沼市)等、認知症の人への適切な接し方を心得ており、且つ専門職とは異なり、近所づきあい、友だちづきあいの延長線上で気軽に交流のできる人材として認知症サポーターが重用されていることがわかる。

また「MC I やまだサービス利用に至らない人が、サロンのお茶だしのスタッフとして活躍」(秋田県羽後町)するなど、認知症サポーターと支援される側が垣根なく交流する中で、認知症の人本人の活動の場が生まれている例もある。

「認知症サポーターの生きがいにつながっている」(大阪府柏原市)、「認知症カフェが認知症サポーターの活躍の場となっている」(広島県府中町)等も活動の効果として挙げられているが、認知症サポーターの23%が70歳代以上であり、60歳代以上では43%を占めることを考えると、認知症サポーターの活動が生きがいとなっていることは、介護予防の観点からも有益であるといえる。

地域に根ざすサポーターの見守り

活動の種類で分けると、最も取り組みが多いのが「見守り」である。

「自治会での認知症サポーター養成講座後に個別ケース会議を開催し、課題解決に必要な支援として、認知症サポーターの見守りを取り入れている」(島根県津和野町)、「年間(平成26年度)、訪問協力者(サポーター)124名が(訪問対象者181名へ)、総合計訪問見守り回数11861回実施している」(熊本県西原村)など、認知症サポーターの活動が認知症の人の在宅生活を支えるのに不可欠なものとして定着している。

また「ひとり暮らしの高齢者で認知症が疑われる人等、サポーター間で情報共有することで、地区で見守る体制ができている。また、サポーター等のはたらきかけで、オレンジカフェに参加され、新たな居場所ができた人もいる」(熊本県荒尾市)というような機能をもつ例もある。

「自主的な見守りが徘徊につながりかねないケースを未然に防ぎ、近所の認知症高齢者への声かけを行っている」(和歌山県美浜町)、「地域における見守り力が向上し、徘徊行方不明で捜索する事案が2年間発生していない」(静岡県東伊豆町)というように、見守りが本来の目的を発揮し、確実に地域づくりに役立っている結果も明らかになっている。

見守りの先に

「見守り」に関しては、自治体事務局が認識している活動のほかにも、個人が日常的な近所づきあいに認知症についての知識を役立てているようなケースも無数にあることが考えられるため、121件の数値にあらわれている以外にも、潜在的に認知症サポーターが地域で見守りに果たしている役割は大きいと考えられる。

また2011年3月11日に東日本大震災で宮城県南三陸町を津波が襲ったとき、住民の約4割が認知症サポーターであるこの町では、高校生から高齢者まで、認知症や他の障害を持つ人も含め高齢者の避難に協力し、その後避難所でも大きな混乱も起きなかった

との報告がある。他の避難所で、認知症高齢者が慣れない環境に戸惑い、一見、突飛ともとれる言動をとって周囲の人が不快感をあらわにしたり、介護する家族が肩身の狭い思いをし、家族が目を離れた隙に行方不明になるニュースも聞かれるなか、地域住民が認知症サポーターとなることの重要性が示された。

2016年3月にも栃木県足利市で、小学生時代に認知症サポーター養成講座を受けた女子中学生が下校時に認知症と思われる高齢女性に気づいて声をかけたことで、家族に連絡をとることができて事なきを得たとの報道があった。

いざという時に、認知症サポーターが日頃培ってきた、知識や観察眼が生きる。これも「認知症サポーターキャラバン」のもたらす効果の集大成であり、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの成果が目に見える形となった一例であるといえる。

サポーターの活動の「頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容」と「活動によって、得られた成果」について紹介する。

記載中の活動の種類番号は下記の通りである。

- 1) 見守り
- 2) 傾聴
- 3) 外出支援
- 4) 通所施設、入居施設等の行事協力
- 5) SOS ネットワーク等への登録
- 6) 認知症サポーターがいる店舗等の登録
- 7) 「認知症サポーター養成講座」の開催協力
- 8) 介護予防教室等への協力
- 9) オレンジカフェの開催または参加
- 10) 認知症の人やその家族を対象とするサロンの開催または参加
- 11) キッズサポーター（小中高校生）による認知症の人との交流
- 12) その他

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
北海道 札幌市	認知症カフェの運営にボランティアとして協力している。H26年度のボランティアとしての参加者数（延数）は47名。	・サポーターが認知症の人とその家族について理解を深める機会となっている。 ・認知症の人を支援する介護事業所等の情報を得る機会となっている。 ・ボランティア自身の介護予防になっている。
北海道 釧路市	釧路市高齢者地域安心ネットワーク、地域の高齢者の見守り活動。 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業：週1回1時間程度、認知症高齢者の話し相手、21人登録。 オレンジカフェの開催：月1回開催、運営スタッフとして、6～7名参加。	認知症高齢者を介護する家族の負担が軽減されたという声をいただいている。
北海道 北見市	5) サポーター養成講座実施時にSOSネットワーク（メール配信）への登録を呼びかける。メール配信登録者2123人。行方不明者が出た時にできる範	5) 行方不明者の早期発見・保護に役立ったケースがあった。 6) 登録店へのステッカーの配布と市ホームページ

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	<p>囲での捜索協力。</p> <p>6) 店舗等の従業員の1割以上がサポーターである店舗を登録の要件とし、接客時の声かけ・対応に配慮して頂く(63店舗)。</p>	<p>での掲載(公開)したことで、企業等からのサポーター養成講座の開催依頼が増加し、普及・啓発につながった。</p>
北海道 苫小牧市	<p>・認知症カフェ(通称:ほっとカフェ)への参加。・開催頻度:市内9会場、月1回ペース。・参加数62名(10月末)。・活動内容:一緒に参加スタイル、傾聴。</p>	
北海道 美唄市	<p>頻度:1~2回/月。参加者数:登録者30名が月1~2回交代で参加(毎週(火)カフェ開催、1回2~3名参加)。内容:利用者との会話、飲み物の提供。</p>	<p>サポーターの方々が生々と活動に参加されている。活動されている方よりサポーター養成講座を受講したい人がいるとの情報があり、認知症に対しての理解意識が高い方に養成講座を受講してもらうことができている。今後も養成講座を不定期ではあるが開催を予定。</p>
北海道 石狩市	<p>石狩市認知症ボランティア「みなみな」。</p> <p>1. 月に1度例会を行い、活動は依頼があったとき。 2. 約20名。3. 個人宅、施設(GHなど)で認知症の方を対象とした見守りや傾聴、趣味活動など。</p>	<p>個人宅での活動は1名と少ないが、週に1度訪問し、傾聴を行った。公的サービスや家族の支援では手の届かないところでの活動を行う貴重な社会資源の1つである。</p>
北海道 当別町	<p>サポーターのなかで、希望者が継続研修をうけ、「あったかサポーター」として、在宅の認知症の方への見守り、話し相手などを行っている。また、月1回程度施設に出向き、行事の協力などを行っている。登録人数50人。別紙資料1。</p>	<p>別紙資料1。</p>
北海道 上砂川町	<p>認知症サポーター養成講座の中で認知症老人と共に歩む会々員(家族会)役員による介護劇を行っており、3人のサポーターが協力している。今年度は各々5~7回の協力をいただいている。</p>	<p>認知症本人を介護する家族の事例を劇に示すことにより、周辺症状が具体的にあり、認知症サポーター養成講座が楽しくわかりやすいと参加者からの感想がある。</p>
北海道 上川町	<p>グループホームの行事への参加。</p>	
北海道 浦河町	<p>(1) 認知症サポーター養成講座参加の呼びかけ。 (2) 半年後又は1年後以上経過したあとに、その後の関わりなどを話しあったりするO、B会的なことはどうかと提案があり、検討中。</p>	<p>(1) サポーターの参加者が、別の職域や自治会などの開催を促してもらったことが2件程度ある。</p>
北海道 本別町	<p>・1人暮らしの方の話し相手、買い物支援を行う「生活介護支援サポーター」、認知症の人を見守る「やさらぎ支援員」の養成、研修で「認知症サポーター養成」の講座を実施している。 ・小、中学校で認知症サポーター養成講座を実施する際、内容に応じてサポーターさんに参加協力をしていただくことがある。 ・自治会福祉部としてサポーター養成講座を受け、その後、自治会で認知症予防教室(現介護予防教室)を開催している地域がある。</p>	<p>サポーターになった後、活動する場につながると良い。今後は具体的な活動を想定した養成も必要と考える。</p>
青森県 田舎館村	<p>認知症サポーター養成講座が年18回程度の開催で平均20人ほどが参加しており、他に家族介護支援事業への参加協等がある。</p>	<p>具体的な成果は確認できていない。</p>

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
青森県 六ヶ所村	見守りが主な活動内容であり、特別な活動は現在行っていない。	特に成果としては現われていない。
青森県 五戸町	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りは適時。 ・認知症サポーターに意向調査を実施し、ボランティア等何かしらの活動を行いたい方に対して、ボランティア養成講座を開催し、現在ボランティアとして介護予防教室へ協力いただいている。 	
岩手県 花巻市	必要時対応。	認知症へのイメージが改善してきている。隠さずに早期受診するよう声かけを行い、受診につながったケースがあった。
宮城県 塩竈市	認知症サポーターを受講していただいた店舗等の登録は現在63店舗。併せて、はいかい高齢者SO Sネットワークの協力機関への登録も依頼している。	
宮城県 気仙沼市	地区で開催されているカフェに参加している。月1回、3～4名。	認知症を介護している家族の声を直接伺えるようになった。
宮城県 大崎市	登録制はとっておらず、地域の集まりで講座を実施しているが、その中で地域として「認知症サポーター」となったのだから、みんなで声かけしあって、集いをしようなど、地域全体の理解と呼びかけにつながっている。	地域での見守り。
宮城県 大河原町	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りは普段の生活の中で、不明者相談があった場合は、「みまもりねっと」携帯電話メール配信サービスにて、不明者情報を発信。受信したサポーターは自分の近くを見まわる協力をしている。 ・グループホームより、ボランティア依頼を受けて、必要時年5～6回、サポーター活動をしている。 ・町の介護相談会年2回時に、傾聴や本人の話し相手をしている。 	
宮城県 柴田町	<p>(1) 認知症介護家族の会や、認知症の方とその家族の集いでサポートを、スタッフと共に実施(各月1回、数名)。</p> <p>(2) 認知症サポーターのなかから活動参加希望者を募り、グループホームを訪問し、認知症の方とふれあう時間を設けている(今年度より実施、10名)。</p> <p>(3) 高齢者のランチを楽しむ会に世話人として参加。ランチ会は12団体あり、各月1回実施、飲食店の協力も得ながら活動している。</p>	(3) 食を通しての集いは和やかな雰囲気、皆毎月の活動を楽しみにしている。認知機能が低下し始めた方に、活動日の声かけをしたり、状況について包括支援センターに報告をしてくれたりと、地域での見守り体制構築につながっている。
宮城県 亘理町	認知症カフェを2カ月おきに実施し、毎回3～4人のサポーターがボランティアとして参加し、お茶入れや会場準備・参加者への話のきき役として活動している。	サポーターがカフェ参加者に話しかけたり、聴き役にまわったりを行うことで参加者がカフェの雰囲気になじみやすくなっている。軽体操や創作活動も一緒に体験し、盛り上げ役にもなっている。
宮城県 七ヶ浜町	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴の会ボランティア、8名、月1回程度、数名ずつ特別養護老人ホームを訪問している。 ・介護者家族の会カフェ、10名、年間7回、介護者どうしの交流をしている。 	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
秋田県 能代市	認知症サポーター養成講座を受講した店舗や事業所に「認知症サポーターがいます」のステッカーや卓上のぼり旗を配布。車や会社の入り口にステッカー等を掲示していただき、認知症サポーターの存在の普及啓発をしている。	
秋田県 仙北市	認知症サポーター養成講座の際にSOSメール事業についても説明し、登録をお願いしている。	サポーター養成講座実施後にSOSメール登録者が少しずつ増えて来ている。H27年4月3377人、H27年12月3810人→433人増(H27. 4月～12月までのサポーター数188人)。
秋田県 羽後町	(1)・サロン(月2回)(お茶のみ含む)。 (2)・SOSもぎ訓練の実施(年1回)。 (3)・サポーター養成の協力(随時)。 (4)・専門職による総合相談日(月1回)。	(1)MCIやまだサービス利用に至らない人が、お茶だしのスタッフとして活躍。 (2)(3)各地区を年1回モデル地区にさだめて、SOSよりそいネットワークを実施。サポーターを養成し、徘徊もぎ訓練にむけてネットワークを各地区の住民とともにたちあげ、訓練を行う。 (4)行政や相談機関にたどりつけない方からの相談。近所からの相談が入るようになった。
山形県 酒田市	テキストに記載されてある通り、その人それぞれ可能な範囲で。	
山形県 寒河江市	・町内会と小規模多機能居宅介護施設による認知症徘徊声かけ訓練(1/年)。 ・高校生中学生による、グループホームデイサービス等での交流(1/月、1/年)。	
山形県 東根市	6)企業等へのステッカー配布。	
山形県 鮭川村	週に1回程度、地域見守り隊や民生委員として、見守り、傾聴を行っている。	認知症サポーター講座を受講したことで、見守りを行って、場所がわからないなど、徘徊の行動をしていたが、包括をつなげてくれ、介入ができた。相談場所がわかったとの声が聞かれた。
福島県 白河市	認知症サポーター養成講座を終えた人達の中で希望者を募り、年に25人程度を認知症専門ボランティアとして養成している(あんしんメイトと呼ぶ)。その講座を終えた人達が登録し、ボランティアを行っている(現在40名が登録)。 1)2)について→4~6人でグループを組み、介護保険施設又は家庭を訪問し認知症高齢者の生きがい支援としてレクリエーション傾聴などの内容で、1カ月に1度もしくは依頼があった時に活動している。 10)について→認知症カフェ開催時の運営補助と、来られた方の対応、傾聴。	・活動している施設より、「あんしんメイトの活動を利用者も楽しんでいる」と意見が聞かれた。・活動している方からも、“自分の生きがいになる”“介護予防につながる”と活動を楽しむ声が聞かれた。
福島県 相馬市	サポーターそれぞれが、日常生活の中で認知症を理解し認知症の方や家族を見守っている。	
福島県 棚倉町	11)は中高生がボランティアで介護施設に年1度訪問している(15名程度)。 10)家族介護者の集いに参加し、声かけなどをして	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	いる。	
茨城県 古河市	高齢者が住みなれた地域で安心して暮らすことができるために、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る事業所、施設、店舗等を認知症の人にもやさしいお店として登録している。お店の管理者又は従業員が認知症サポーター養成講座を受講していることが条件であり、登録店にはステッカーを交付している。平成27年10月末時点で50カ所登録している。	地域で認知症の人とその家族を見守る体制が出来始めている。
茨城県 下妻市	・月1回のオレンジカフェ開催にスタッフとして参加。・毎回7～8名の参加。・それぞれの専門とする分野で役割分担をしている。ex. 保健師→相談、進行。栄養士→調理実習。シルバリーリハビリ体操指導士→体操など。	専門的な知識・技術をもったスタッフも、参加者(認知症本人や家族)も、それぞれ自分たちが得意とすることを役割にもつことで、縦のつながりより、横のつながりが強く仲間意識が感じられる。対等な立場での関わりができていていると感じる。
茨城県 常総市	市が独自に養成している介護予防に関するボランティア「介護予防推進員」が市内に約250名いる。養成研修の中に、認知症サポーター養成講座も組み込まれており、介護予防推進員の近所に住む認知症高齢者の見守りや外出支援、介護予防教室への参加促し等を行っている。	他の自治体から引っ越してきて閉じこもりがちで認知症のある高齢者を介護予防教室へ誘い出す。独居の認知症高齢者の買い物、受診、服薬等の面倒を見ている。認知症高齢者に手芸等の活動を定期的に指導している等の活動につながっている。
茨城県 取手市	どこで、こういった活動というのは無いが、近所で最近心配な認知症の方がいる等の場合見守りし、必要ならば民生委員や包括に相談。	
茨城県 つくば市	・啓発活動、2回/年、10名程度の参加、チラシ配布。・研修会、3回/年、10名程度の参加。・徘徊模擬訓練、1回/年。参加実数の把握はしていないが、事前の認知症サポーター養成講座にて238名のサポーターを養成した。当日訓練に参加した市民の方は117名だった。	・登録サポーターの数からみると、活動を把握しているサポーター数は少ないが、確実に、年々活動に参加してくれている人数は増えている。又、一度参加して下さると、継続して参加頂いている状況のため、活動の主旨を理解して頂いていると思われる。
栃木県 足利市	サポーターの登録人数150名程度。社会福祉施設の傾聴ボランティア、施設見学等の自己研鑽。	
栃木県 那須烏山市	1)と2)民生委員72人により常時行われている。 5)見守りネットワーク事業の中で、気になる方がいた時に包括に連絡、約100名。 8)サロンのサポーター31名が20自治会に出向き、実施。 9)月1回市民カフェの中で開催。カフェのスタッフが、傾聴したり、必要時包括へ情報提供。	高齢者世帯で妻が認知症であるが、夫の固執した考えから、サービス利用が難しかったケースが、オレンジカフェを通して、サービスに結びついた。
群馬県 伊勢崎市	介護予防教室について19名が協力。受付・体力測定時等の運営の協力と見守り・介助。	
群馬県 吉岡町	企業店舗にステッカーを貼っていただいている。個人宅や個人の車にもステッカーを貼っていただいている方がいる(ステッカーH26年11月～80枚配付)。活動としては各個人が生活のなかでできる見守りをお願いしている。	認知症サポーターを、多くの人に知っていただく機会になっている。
群馬県	日々の生活の中で見守り声かけ。	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
昭和村		
埼玉県 さいたま市	地域包括支援センターの実施する介護サロンやオレンジカフェへのボランティア参加。	サポーターの具体的な活動の場として機能している。
埼玉県 鴻巣市	ご近所見守り隊として、認知症になっても安心なまちが作れるよう協力を頂いている。	
埼玉県 鳩山町	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回定例会。 町内グループホームでの傾聴ボランティア。 町内認知症カフェでのイベント企画、運営。 	
埼玉県 皆野町	民生委員さんの地域での見守り、声かけ、相談(26名)。	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターにつないでもらい、早期受診(MCI診断)、介護保険申請につながった。 家族支援、介護者のつどい紹介。
埼玉県 長瀨町	グループホームのある地区のサポーターが年数回、グループホーム入居者と交流会を楽しんだり、消防訓練に協力するなどしている。	グループホームと地域住民の交流が深まった。
千葉県	県が把握している内容については、「平成26年度市町村における認知症施策に関するアンケート結果」を参照。(別紙資料2)	
千葉県 松戸市	<p>オレンジ声かけ隊の活動(平成26年度)</p> <p>オレンジ協力員の活動</p> <p>(別紙資料3)</p>	H21年より、オレンジ声かけ隊の活動を開始し、5年を経過した昨年より、更に積極的に活動するオレンジ協力員が誕生した。オレンジ協力員については、専門職(包括や認知症コーディネーター)と、どのように協力して活動できるか現在模索中。
千葉県 茂原市	<p>それぞれの活動なので特に決まっていない。</p> <p>認知症カフェは毎月あるので交代で行う→4人くらい、話し相手、配膳。</p> <p>認知症予防教室の学習サポーター、毎週ある→10人、学習後の丸つけ。</p> <p>また街頭での啓発活動は3ヶ月に1回→6人程度、チラシ配り。</p>	活動したいのに活動の場がないという人には、ボランティア活動の場を提供できるように、学習サポーターの案内や街頭での啓発活動の案内をし、サポーター同志でのつながりが出来ている。
千葉県 佐倉市	郵便局など認知症サポーターが所属している団体に、「認知症サポーターがいます」ステッカーを掲示してもらっている。	
千葉県 習志野市	認知症サポート事業所登録制度。事業所の長及び従業員の半数以上が認知症サポーター養成講座を受講した場合に、認知症サポート事業所として登録。配布するステッカーを掲示し、日々の業務の中で認知症の人とその家族を支援する。	
千葉県 勝浦市	<ul style="list-style-type: none"> 銀行、郵便局、希望のあるお店に向け、講座を実施した。→認定所マークは作成中。 中学校へ開催協力を依頼し、平成27年度は2回実施した。 サポーターは日常生活の見守りを中心に行っている。 	
千葉県 流山市	認知症サポーターがいる銀行、学校、スポーツクラブ、薬局等に認知症サポーターのステッカーを配布し、配布先のリスト管理を行っている(H27. 11)	平成27年度4月からリスト管理を開始。現在のところ、具体的な活用には至っていないが、今後、リストの活用等について検討予定。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	月末現在47か所の登録有)。	
千葉県 君津市	認知症サポーター養成講座の参加者に対し、特別に何か活動をお願いしているわけではない。地域での見守りを行っていただくとともに、君津市認知症にやさしい地域づくりネットワークに賛同・協力して下さるといふサポーターに対し、SOSネットワークに登録していただき、ご協力いただいている。サポーターの活動の場については今後、検討中、	見守りをお願いしているため、目に見える形で成果として表すことは難しい。しかし、サポーター養成講座を受け、認知症にやさしい地域づくりネットワークに賛同して下さった個人・団体は376件と年々、増加している。
千葉県 印西市	・小学校及び成人の認知症サポーター養成講座(小学校17校、成人年10回程度)。 ・カフェの際のボランティア協力。	参加する場を市も積極的に提供していくことで、非活動メイトが減ったこと。
千葉県 九十九里町	活動頻度・参加者数は不定だが、養成講座を開催する際に場所の確保等キャラバンメイトの補佐を行うことがある。	
千葉県 長柄町	平成27年10月現在、町内17か所の地区で介護予防教室を実施しており、教室を運営する介護予防サポーターと兼任して17名の認知症サポーターが活動している。教室に参加する高齢者の方と認知症予防の脳トレ等に取り組み、見守りの効果が期待できている。	認知症の症状に関する知識があるため、教室の参加者や近所の高齢者で、認知症の疑いがある方に関して、地域包括支援センターへ連絡が入り、随時必要な支援を行うことができる。
東京都 新宿区	7)年2回、1回あたり平均5名。講座設営の準備やサポーター活動の説明。 9)月4～5回、1回あたり平均2名。お茶出しを声かけ認知症の人の作業手助け。 10)月3回、15名。家族会の運営手伝い(ファシリテーター等)。 12)(1)年2回、1回あたり30名。公園で高齢者役に対して声かけをしてみる。(2)年2～3回、1回あたり5～10名。認知症講演会など普及啓発活動に参加手伝い。	認知症サポーターが職員と共に普及啓発活動することで地域住民の共感が得られやすく、認知症サポーターの申し込みが増えている。また、活動を具体化していくことにより、認知症サポーターのモチベーションも上がっている。
東京都 墨田区	見守りサポーター隊、年4回、その他は日常生活の中で随時。地域住民による見守り活動、オレンジカフェでの傾聴等。	・認知症の方への正しい理解、接し方等について理解が深まった。 ・認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをしていこうと、住民の意識が高まり、地域の見守り活動へとつながった。
東京都 品川区	・年間3回程度。 ・延298名参加(平成24年度以降)。 ・活動内容:出前講座の開催対象の検討。認知症カフェの検討。サポーターのステップアップの検討等。	・サポーターになってほしい人、職種(マンション管理人、小中学生、警察官等)への出前講座の実現。 ・認知症カフェの実施団体からの活動内容、立ち上げ、運営上の苦勞、工夫を聴く機会の実現。 ・徘徊高齢者の早期発見、対応キットの作成等。
東京都 北区	1)2)日頃からの活動(各自)。 7)9)10)包括支援センターを中心とした認知症事業。	・地域での支え合いのきっかけとなる。 ・サポーター自身の生きがいづくり、介護予防となっている。 ・包括との連携。
東京都	3)外出支援制度に登録し、社会福祉協議会に委	高齢者あんしん協力店アンケートにより、今後の課

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
板橋区	託し、支援につながっている。年間30人程度。 6) 高齢者あんしん協力店登録数298(平成27年1月現在)、来客者への丁寧な対応。 7) 小中学生向け認知症サポーター養成講座では、民生委員やボランティアの方と一緒に開催している。 2)9)10) 月1回、家族会やカフェ開催で、会場設定、受付、司会、傾聴等の活動を行っている。	題が明確になった。
東京都葛飾区	「認知症サポーターの活動状況について」参照。(別紙資料4)	「認知症サポーターの活動状況について」参照。(別紙資料4)
東京都青梅市	民生委員の協力により見守り実施。	
東京都府中市	・介護者の会:4カ所で開催、各月1回、それぞれ2~8人くらいサポーター参加、傾聴、お部屋、お茶お菓子の準備、進行に従事。 ・サロンの開催:4~5カ所、月1程度のもの、週1など、サロンの運営に従事。 ・オレンジカフェへの参加:3ヶ所、月1回または3週間に1回、話相手、お茶淹れなど。	住民同士のたすけあいのシステム構築に寄与していると考ええる。
神奈川県横浜市	活動頻度や参加者数は不明。 ・SOSネットワークに登録し、地域の商店街など関係機関へ協力の呼びかけを実施したり、徘徊模擬訓練へ参加するなど、地域の見守り活動を行っている。 ・キッズサポーターが課外活動でグループホームを訪問する取り組みで、卒業後もグループホームを訪れ、入居者と交流を持っていることなど。	地域による見守りは、徘徊による事故を未然に防ぐ成果がある。
神奈川県清川村	1) 不定期/15人/各地区のサロン活動(月1~2回)を通じての見守り。 2) 週1回/1人/清川村社会福祉協議会デイサービスの日中活動での傾聴。 3) 不定期/8人/「コミュニティ交通」活動の運転及び受付等。 10) 不定期/15人/サロン活動を通じての本人の社会参加、家族のリフレッシュ。	
新潟県	県庁に開催依頼のあるサポーター養成講座に年間20回位協力する。係内の数名で対応。	職域からの依頼が多く、その現場での具体的な事例や困りごと、認知症への関心度合などを得ることができる。
新潟県加茂市	活動頻度やサポーターの参加者数は把握していないが、サポーターが「地域で認知症の方が歩いているところをみかけると声かけをしている」といったような言葉は多く聞かれている。	ある地区では認知症の理解が広がることで、認知症家族が地区の方に状況をオープンに話すことができ、「徘徊しているところを声かけしてもらい、助かった」といった意見を聞いた。
新潟県燕市	年4回市役所で開催する認知症カフェにスタッフとして参加していただいている。1回で3~4名のサポーターさんの参加がある。	今まで活動の場がなかったのに、サポーターになっても特に何かにつながる事がなかった。カフェのお手伝いをお願いすることでサポーターとしての意識が持てるようになったとの声をいただいた。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
新潟県 糸魚川市	6) 登録店舗、7カ所。 9) 認知症カフェへの参加。サポーター養成講座を受講後、カフェに参加している人が何人かいるが、人数は把握していない。	地域住民にサポーターの存在を知らせる機会となっている。
新潟県 五泉市	月2回程度、市内特養へボランティア活動に参加、5人。 毎週金曜日、高齢者の集いの場でボランティア活動、4人。 サポーター養成講座に年1～2回開催協力、2人。	サポーターが仲間を呼び込んで、活動する仲間が増えてきた。
新潟県 魚沼市	6) 希望がある場合、県のホームページに登録。 7) 講座1回あたり1～4人のメイトが従事。	
新潟県 胎内市	認知症サポーター養成講座を受けた人のうち、フォローアップ講座を受け、さらに地域で活躍したいというボランティアの会「認知症サポーターオレンジの会」を結成。H27の活動内容は、資料参照(別紙資料5)。	
富山県 魚津市	オレンジカフェ、介護家族のつどい。活動頻度…月に1回。サポーター参加者…10名前後。活動内容…認知症の方やその家族がお茶を飲みながら会話し、日頃の悩みや困り事を相談する(オレンジカフェはボランティアの方が軽食を調理され、参加者全員で昼食を食べる)。	本人…はじめは表情も固く「なぜ自分がここに来なければならぬのか」と話していた方が、徐々に笑顔で参加し、他の方と交流されるようになった。 家族…ボランティアに来られている方も過去に家族を介護しておられた方ばかりのため、介護する上で困っていることなどアドバイスを受け実践しておられた。
富山県 砺波市	福祉職場(老人ホーム等)でのボランティア活動。 頻度や人数は不明。	中学生が高齢者とどう接したらよいか、の参考になっている、と教員より聞いている。
富山県 南砺市	4) グループホームでのボランティア活動、年1回、参加者3名(H26年度)、傾聴。 9) 認知症カフェへの参加、年1回、参加者10名(H26年度)、介護者の話を聴いたり、笑いヨガの体験。	グループホームで認知症のご本人と接する機会のあった方からは、どう声をかけてよいのかとまどいはあったが、接していく中で理解が深まったという声がきかれた。
富山県 射水市	H27年度から市内3箇所で開催しており、認知症地域支援推進員のほか、スタッフとして認知症サポーター養成講座を受講した方に協力していただいている。	認知症についてより詳しく知りたいという市民ニーズが高まってきていると感じている。活動を通じて本人やご家族だけでなく、地域全体の認知症に対する理解が深まっている。
富山県 朝日町	・「認知症サポーター養成講座」は月に1回程度、住民等の依頼により活動を行っている(サポーター4～5名程度、参加人数により調整)。 ・オレンジカフェは月1回第1金曜日に行っており、月ごとに講師を呼んでの講演や、健康維持のための体操、マッサージ等々を行っている。	
石川県 宝達志水町	サポーターの普及・啓発活動により、認知症サポーター養成講座の開催につながった(1件)。	・地域住民への認知症という病気の意識づけ。 ・サポーター数の増加。
石川県 能登町	2) 月1回、対象者室への訪問し傾聴。サポーター28名。 12) 月1回程度地域で高齢者交流会を開催(町内46地区で実施)。歩いて集まれる会場でそれぞれ会	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	食やレクなど趣向を凝らし、交流会を行っている。地域との繋がり、他者との交流で介護予防を図る。	
福井県 福井市	6)顧客対応に従事する従業員の半数以上が、認知症サポーターである場合、認知症にやさしいお店として登録していただき、認知症の人が安心して暮らせるまちづくりに努めていただいている。介護事業所、医療機関については「認知症にやさしいまちづくり協力事業所」として登録いただいている。(資料:要綱)あり。(別紙資料6) 7)市内には認知症の普及啓発を行う団体があり、認知症サポーターとキャラバンメイトが協力し普及活動を行っており、一部の団体には、市より補助金を出している。また、地域包括支援センター(メイト)とサポーターが協力して養成講座を行っている。	
福井県 小浜市	平成26年度に小浜市認知症サポートリーダー養成講座(5回のプログラム)を実施し、修了した32名が「小浜市認知症サポートリーダー」として見守り、講座開催協力、介護予防教室開催協力の活動を行っている。	各行政区毎に数名ずつサポートリーダーがいるので、身近な相談役、普及啓発役としての役割を担っている。
山梨県 笛吹市	それぞれができる範囲で活動している。地域の中での見守り、声かけ(日々の生活の中で)。気になる人を相談窓口につなぐ。介護者へのピアカウンセリング(主に家族会の会員)。	・見守りの中で気になる人の情報をもらい相談支援につなげた。 ・介護者の1人として介護中の人への相談にのり介護負担の軽減につながった。
山梨県 中央市	自治会へ開催協力を呼びかけている。月1~3回程度開催している(自治会)。オレンジカフェは月1回開催。	
長野県 大町市	6)来店時の見守りなどの対応をしていただくことと必要によっては担当課に連絡いただく。 7)講座開講時の準備や受講生のフォロー。 8)認知症の普及啓発。	6)ステッカーの貼布により認知症の人でも安心して買い物ができるようになってきた。 8)小地域で開催することにより地域での認知症の理解が深まってきた。
長野県 箕輪町	傾聴ボランティア、地域の見守り、等。	徘徊していると思われる人の連絡、情報があつたことがある。
岐阜県関市	地域での理解を促す。企業・支援団体はそれぞれの役割の中で見守り等の協力を得ている。	地域での問題となっている家庭の話がでた時の助言や支援の促し、認知症を疑う方や、安否などを市へ報告、など。
岐阜県 中津川市	小学4年生のサポーターがグループホーム訪問を行い、認知症の方と交流を行った。4年生(100名)、年1回。	よく話を聞く、何が困っているか様子をみる、笑顔で接するなど講座の内容を生かした接し方ができた。オレンジリングを付け、家族にも講座内容を伝える事ができた。
岐阜県 瑞浪市	月1回の認知症カフェのスタッフ。1回あたり3名程、交代制。	サポーターとしての意識向上。
岐阜県 可児市	8/25 10名、10/27 16名→さつきカフェ参加(認知症カフェ)。参加者の話し相手、カフェの運営協力など。 10/14 8名→健友会体育大会へ地域密着型施	試行錯誤中で成果については不明。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	設入居者を招待。話し相手、競技出場時のサポートなど。	
岐阜県 山県市	<ul style="list-style-type: none"> ・みまもり訪問活動。 ・デイサービスへボランティア活動。 ・キャラバンメイトとしてサポーター養成講座開催(依頼があれば随時)。 ・サロンへ訪問活動。 	状況変化に応じ市へ連絡してもらえるため早期対応へつなげることができる。
岐阜県 瑞穂市	認知症サポーターステップアップ講座(独自開催)を修了したサポーターのうち、地域活動への参加・協力意思のあるサポーターを、社会福祉協議会のボランティア登録を経て、地域活動検討会(独自開催)(9名登録、傾聴・活動補助等)を開催(※市内の地域密着型施設を対象)。活動頻度は不規則(サポーターの都合による)。以上地域包括が主催。	<ul style="list-style-type: none"> ・登録したサポーターのうち、活動に実際つながった例は無く、見学のみ。施設側が望む日程・活動内容と合わないことが多く、今後調整が必要。
岐阜県 海津市	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員福祉推進委員…見守り訪問、随時。 ・脳トレ教室(介護予防教室)…学習サポーターとして協力、毎週1回(7~12月)8名。 ・オレンジほっとカフェ(認知症カフェ)の協力、毎月1回4名。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症について理解していただき、温かい目で見守っていただくと共に、地域で気になる方があれば、地域包括支援センターへ連絡をいただくこともあった。 ・介護予防教室や認知症カフェで、安心してスタッフとして協力していただくことができ、参加者目線で運営企画の提案や協力等を得ている。
岐阜県 岐南町	小学生・中学生を対象とした養成講座を開催し、「見守り」をしている。	
岐阜県 垂井町	毎月15日オレンジカフェを開催。サポーターは毎回6~10人参加。お茶の接待や利用者の話し相手になってもらっている。	介護者同志でのネットワークができてきた。介護経験者が相談にのって下さる。
岐阜県 八百津町	包括支援センター主催の認知症カフェに声かけし、参加して頂いたり、手伝って頂く。10~20名程度のサポーター参加くださる(1回あたり)。年5回。	認知症カフェのボランティアの方から、サポーター養成講座の依頼が有る。
静岡県 沼津市	従業員の1割以上の者が「沼津市認知症サポーター」に登録されており、高齢者に優しい取組を行っている店舗を、「沼津市高齢者あんしんサポート店」に登録する。	来店したお客様に市の介入が必要と判断した場合、長寿福祉課へ連絡する。
静岡県 富士宮市	サロンの開催:週1回、サポーター20名程度。地域(黒田)において週1回寄り合いサロンを開催し、地域住民(認知症の方もそうでない方も)の居場所づくりに貢献している。内容:基本的にはおしゃべりの相手やサロン参加の声かけ、一緒に場所まで行く等。	地域の中で認知症の方が、閉じこもることなく出かけることができるようになった。自然と見守りができる。住民の意識の向上につながった。
静岡県 伊豆の国市	「認知症サポーターのいる店舗」として、市オリジナルのポスター掲示を依頼している。	新聞、広報紙等への掲載による普及。
静岡県 東伊豆町	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしん見守りネットワーク登録事業所(安否確認、徘徊捜索に協力)への講座実施(随時)。 ・高校に出向いた講座を年1回実施、受講した生徒が講座運営の補助等を行っている。 	地域における見守り力の向上、徘徊行方不明で捜索する事案が丸2年発生していない。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
静岡県森町	元気もりもりボランティアも兼ねている人達が、居場所での活動(10人程、週1~2回)。 小学校での認知症サポーター養成講座して寸劇の協力(5~6人、年1回)。	寸劇を取り入れたサポーター養成講座は、笑いあり、子供達に認知症を受け入れやすく、理解しやすくなっていると感じる。
愛知県名古屋市	別冊「オレンジリング」に記載(別紙資料7)	
愛知県瀬戸市	活動頻度:月1回。サポーターの参加人数:1~2名。活動内容:認知症カフェの協力スタッフ。	
愛知県半田市	8)週1回、6カ月の教室への協力。活動頻度はそれぞれ違う。 9)月2回、活動頻度はそれぞれ違う。	8)予防教室終了後に、自主的なグループ活動が始まっている。
愛知県春日井市	希望者にSOSネットワークに登録してもらい、徘徊高齢者の検索依頼が提出された時に、可能な限りの協力をお願いしている。	
愛知県刈谷市	市内の小学3年生約100名が、3カ月間で3回にわたり、地域のデイサービスセンターを訪問し、利用者と交流する。1回目終了後に認知症サポーター養成講座を実施し、2回目以降は、その知識を踏まえた上で訪問する。	デイサービスの利用者から、「かわいい子供たちにまた来てほしい」といった声があがった。また、1回目の訪問と比べ、2回目では子供たちの表情や接し方(優しく接する)というところに変化がみられた。
愛知県清須市	民生委員や傾聴ボランティア等のサポーターによる日常的な見守り活動。 傾聴ボランティアによる個人宅、施設訪問。 徘徊高齢者検索メールへの登録。 福祉カフェの運営協力。	住み慣れた地域で暮らし続ける一助となっている。
三重県松阪市	別紙資料8。	別紙資料8。
三重県鳥羽市	見守りは日常的に行ってもらっており、頻度は不明です。ネットワークへの登録は25名行ってもらっています。	
三重県菟野町	2)週1~2程度、2~3名、自宅、グループホームに訪問し傾聴。 5)必要時、サポーター数不明、徘徊不明者の検索協力。 10)家族の集い:1ヶ月に1回集い、定例会を開催、5~6名、認知症の方の介護をしている家族の傾聴。 12)月1回、7~8名、社協広報紙に認知症に関する記事の編集。	
三重県度会町	認知症カフェ、1回/月開催、サポーター参加3名。	
滋賀県	滋賀県理容生活衛生同業組合の全県的な取組として認知症サポーターのいるお店としてステッカーを貼り、気軽に利用できるように取り組んでいただいている。	
滋賀県彦根市	・認知症あったかサポート店としてサポーター養成講座をうけた団体を登録。市のホームページ等で	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	<p>周知している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養成講座内で市独自のメール配信システムへの登録について周知。 ・傾聴ボランティアとしてグループをつくり活動されている。 	
滋賀県 草津市	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回の認知症カフェの場で、本人やご家族、サポーター同士の交流等をされている。10人程度。 ・サポーターのいるお店を「認知症の人にやさしいお店」として登録し、日頃からあたたかい対応をいただいている。人数は約1000人。 	郵便局、銀行の職員(サポーター)より、認知症の疑いのある人の情報が包括や市へ入ってくるようになった。
京都府 宮津市	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区住民に対するサポーター養成。・小、中学校でのサポーター養成。 	
京都府 精華町	<p>1)5)6) 徘徊模擬訓練時に SOS ネットワークを活用しメール配信でサポーターが見守りを行う予定。また精華町社協に登録している福祉サポート店(サポーターがいる店舗)にも協力してもらい模擬訓練を実施予定(H28.1 実施)。</p> <p>7) サポーターから地域自治会を中心に開催依頼により、自治会(サロンを含む)によるサポーター養成講座を開催(平成 27 年度 2 回/H27.10.31 現在)。</p> <p>8)10)11) 介護予防教室や地域サロンを小学校区で実現することにより、認知症の当事者やその家族が参加できることやキッズサポーター養成講座を終えたキッズサポーターが養成講座で習ったことを生かして交流する時間を確保できている。</p>	<p>1)5)6) 今までは、テストメールのみでもしもの時に備えることを行ってきたが、実際に徘徊模擬訓練で声をかける等を行うことで、日常生活の中で備えることができる(今年度から毎年実施予定)。</p> <p>7) 大きな区切りでのサポーター養成講座で行うことも必要であるが、地域の特徴を捉えてサポーター養成講座を行うことで、より身近に感じ、地域で支え合うことが期待できる。</p> <p>8)10)11) キッズサポーターやサポーターが養成講座終了後に、地域の拠点である小学校で予防教室やサロン時に、認知症の当事者やその家族が交流することで、養成講座で学んだ知識を生かすことができている。</p>
大阪府 大阪市	別紙平成26年度大阪市キャラバン・メイト活動報告参照(別紙資料9)	
大阪府堺市	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り、傾聴…日常生活の中で可能な範囲で行っている。 ・SOSネットワーク…サポーター養成講座を受講した企業へSOSネットワークへの協力依頼。 ・オレンジカフェ…カフェ運営のスタッフ、ボランティアとして参加。当事者、家族の話を傾聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOSネットワークに協力する企業が増え、波及効果として、サポーター養成講座を受講する企業やSOSネットワークへ協力する企業が増えた。 ・オレンジカフェだけの見守りだけでなく、地域での見守り支援につながっている。
大阪府 吹田市	7)養成講座の開催、地区公民館で年1回、10人前後。その他にも毎月集まり今後どのような活動をするか話し合っている。	7)サポーターが増え認知症への理解がひろがるとともに、地域で何かしたいと考えるサポーターも増えている。
大阪府 河内長野市	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェに、ボランティアとして参加。月4回、1～2人ずつ。 ・認知症対応型通所施設にて、傾聴、ハンドマッサージを実施。月6回、2～3人ずつ。 	平成27年7月に初めて認知症パートナー養成講座を開催し、現在12名が認知症パートナーとして活動を始めたところである。成果としては、まだないが、認知症の方と実際に関わったことのあるボランティアが増えれば、今後在宅で生活する認知症の方やご家族の相談役等の役割を担ってもらえるかと思う。
大阪府 大東市	大東市と協定を結んでいる見守り企業に対して、見守りと報告の協力をお願いしている。	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
大阪府 和泉市	オレンジカフェチラシ。1カ所について、3～5名程度(市内9カ所)。(別紙資料 10)	地域の支えあいの拠点となっており、誰もが集える場として、当事者やその家族、地域住民や専門職など、多くの方が参加している。その中で相談があれば、関係機関に繋ぐこともできており、早期の課題解決に繋がるっている。また、オレンジカフェのボランティア(サポーター)が当事者と関わることで、認知症の方の理解が深まったり、ボランティア自身が生きがいを感じたりしている。
大阪府 柏原市	福祉委員の活動をかねて、活動されている。活動頻度は月2～3回でメンバーも固定されてきている。	サポーターさん自身の生きがい、やりがいにつながっている。また、身近な相談先として顔が見れる状態である。
大阪府 藤井寺市	有志が集まりNICE！藤井寺親父パーティと称し、月1回会議を行ない、年に数回のイベントを開催する。	イベントを通しての普及啓発により、認知症への意識向上に繋がっている。
大阪府 東大阪市	・認知症ボランティア養成講座最終回には各地域包括支援センターとの顔合せをし、センターで実施する家族会や声かけ体験などの協力(2包括が2回実施各2～3名参加)。 ・26年度実施の認知症相談会(年1回)に本人の話し相手として協力(3名)。	始まったばかりであり、成果といえる活動にはなっていない。
大阪府 田尻町	特別な活動ではなく、日常での見守りをお願いしている。	
兵庫県 姫路市	1)見守り活動の実施(月2回程度)。 9)オレンジカフェの開催(不定期、10～30名前後)。 7)10)年1回程度。	
兵庫県 西宮市	・認知症サポーターがいる福祉事業所、店舗等、希望された所は、ステッカーを貼っている。 ・サポーターになった方が、地域で開いてほしいと、講座要請が入る。 ・認知症つながりフェアでのボランティア。	
兵庫県 三木市	自主活動として「ホッククラブ」という会を立ち上げ、月1回のサロン、役員会を開催されている。地域での見守り、認知症サポーター養成講座等随時、行っている。	一部の地域であるが、認知症に対するの関心が高まった。 月1回のサロン(カフェ)への支援者が増加している。
兵庫県 たつの市	7)サポーター自身が参加している地域の様々な活動の中で呼びかけ、開催申し込みをしている。 8)「回想法」開催への呼びかけ、開催申し込み等協力している。 9)10)認知症カフェを立ち上げ、定期開催している。 11)受講後、校区内の施設にてふれあい交流に行っている。	・認知症の理解が広がり、早期より本人、家族の気づきにつながっている(認知症初期集中支援チームの相談結果より)。 ・サポーターがさらに増員していくために、地域へ働きかけサポーターを増員している。 ・地域での見守り、支え合い活動への基礎とし「地域支えマップ」作り等へ発展させている。
兵庫県 神河町	7)について、キャラバンメイトと共に開催協力を行っている。年に2回程度、サポーター1名。 8)について、キャラバンメイトと共に開催協力を行	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	っている。年に10回程度、サポーター1名。 9)について、今年11月に始まった事業(月1回開催)。サポーター20名(月替わり、1回につき4～5名担当)。オレンジカフェの自主運営。	
兵庫県 上郡町	1)民生委員、福祉委員等近隣の見守り。 9)オレンジカフェ、2回/月開催。	
奈良県 橿原市	9)平成27年9月からオレンジカフェ(月1回開催)の協力をして頂き、参加の話を聞いたり、運営の協力をして頂いている(4名)。 11)平成27年10月に養成したキッズサポーターが、認知症の人との交流のため、平成27年11月にグループホームを訪問。	9)認知症の方の介護経験者で、認知症サポーター活動をして下さっている方々は、認知症の方への適切な対応、家族へ助言等して下さっている。
奈良県 葛城市	サポーター養成講座を受講した団体等に協力団体として登録。	
奈良県 十津川村	1件、認知症の高齢者が独居で暮らしている。2名程のサポーターが、訪問による見守りを行っている。	認知症サポートの見守りがあり、地域で暮らしやすくなった。
奈良県 川上村	民生委員による日々の見守りや「認知症サポーター養成講座」の関係がある時には協力してもらっているが、見守りは民生委員の活動の一環として実施しているため、具体的な活動は実施していない。	
奈良県 東吉野村	毎年小学校5年生に対し講座を行い、認知症の人に対するの理解を深めてもらう。民生委員・消防団・自治会長に対し養成講座の講師として講演を依頼。	
和歌山県 有田市	8月にキッズサポーター(4名)が、運営する認知症カフェを開催。施設利用者8名がキッズサポーターと歌をうたったり、ゲームをして過ごした。	テーマに添った言葉を出し合うゲームをしたので、キッズサポーターは、自分たちの知らない言葉を当事者から教わり、認知症になってもできることがあると実感できた。
和歌山県 紀美野町	・傾聴ボランティア団体にサポーター講座を実施。月1回施設への訪問、月1～2回個人宅へ傾聴活動。 ・SOSネットワークメール協力員として登録。不明者発生時に情報を提供、目配りしてもらう。・カフェ(月1回)活動に協力。	
和歌山県 有田川町	具体的な頻度等は分からないが、地域での見守り活動は、行ってくれている。	地域のサロンで開催したことにより、参加者(認知症あり)の見守りができるようになった。
和歌山県 美浜町	地域で、見守りを自主的に行っている	外出して帰ってこられなくなる可能性がある方を地域で見守っている(見廻っている)。見かけたら、家まで送ったり、声かけをしている。
鳥取県 琴浦町	7)保育園2回、小学校3回、高校2回、事業所1回。 9)5回。11. 3回、今後3回予定。	特に小学生の認知症に対する理解が深まり、高齢者に対する意識に変化が見られた(良い方へ)。
鳥取県 北栄町	・ほくえい見守り安心ネット協力機関の登録。 ・小学生版認知症サポーター養成講座の開催協力。	・地域資源のネットワーク化。 ・小学生とその親世代の認知症への理解。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
島根県 津和野町	活動頻度…随時 参加者数…18名 活動内容…認知症サポーター養成講座(自治会)後に個別ケース会議を開催し、その方の課題解決に認サポの見守りを取り入れた。	会議にあげた以外の方についても、住民主体で見守り体制を整えようと動くことになった。
岡山県 高梁市	認知症サポーター養成講座は、H27.9月末までに137回開催、4331人のサポーターを養成している。	認知症サポーターが各地域で増加していることに伴い、地域の認知症の方の見守り活動や家族支援が少しずつ進んでいるように思われる。
岡山県 備前市	介護予防のボランティア講座受講生に養成講座を受講してもらっており、卒業生が地区サロンのリーダー的存在になっている。 またキャラバン・メイトを受講した住民や社協職員には、住民対象の養成講座が同小学校区である場合協力をよびかけている。	サロンや近所で忘れっぽさが気になる人がいた場合、包括に相談してくれている。受診や介護保険につながった人もいる。
岡山県 美作市	認知症サポーターが中心となり開催している。	
岡山県 浅口市	詳細は不明。	認知症が疑われる方の相談がある。
広島県 尾道市	1)2)…尾道市からの委託事業「認知症高齢者見守り事業」のやすらぎ支援員として、月2回、見守り、話し合い手等として訪問、31名が活動。 5)…登録を呼びかけ、主体的に登録していただいている(平成27年、5月より市がスタート)。 6)…平成21年より登録を開始し、現在、164店舗等に登録していただいている。 9)…オレンジメイトとして、各地域でのカフェ開設に参加し、主催していただいている。現在、市内に5つのカフェが出来、2つのカフェを準備中である。月1回、4～13名で支援いただいている。 11)…受講後、施設への訪問をおこなっている。	1)2)…認知症を患った方への個別支援、月2回の訪問により楽しい時間の共有、生きがい感スケールの向上、認知症予防、ご家族の安心、ご家族の相談相手としてストレスの軽減。 5)…早期に行方不明者の発見につながっている。 6)…認知症サポーターのいる店舗として、ご家族の安心、地域の安心につながっている。 9)…小地域単位でのカフェ開催により、地域の人が出会い、つながる場、また、ご家族の相談の出来る場となっている。また、会参加者が互いに認めあい心豊かに楽しめる場となっている。 11)…対応の仕方を学んで施設訪問をおこなうことで、適切な対応につながり、高齢者に喜んでいただいている。
広島県 東広島市	・傾聴については、市において、認知症サポーターを対象に「傾聴おはなしボランティア」を養成しており、現在約60名が登録している。	・利用者のご本人やご家族から、満足の声がかかっている。
広島県 安芸高田市	・活動頻度、月1回程度。・サポーター数、347人。・具体的な活動内容、見守り活動。	
広島県 府中町	月1回、認知症カフェ「だんだん」開催。認知症サポーター養成講座受講者がボランティアグループを立ち上げ、社協等の協力のもと、在宅やグループホーム入居の認知症の方やその家族が利用できるカフェを運営。	養成講座を受講した人達の活躍の場として機能している(サポーターと当事者やその家族の地域のつながりの場となる)。
広島県 熊野町	個々の生活の中で見守り、傾聴を行っている。	
広島県 世羅町	1)民生委員等が見守りネットワーク事業を展開されている、頻度は随時。 7)地域でのサポーター研修、年に1～2回。	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	10) サロン開催月1回。	
山口県萩市	徘徊・見守りSOSネットワークのしくみができた後は、金融機関や郵便局、保険会社、薬局、JA、宅配の事業所等、認知症サポーター養成講座を受講した事業所にネットワーク協力店の登録を依頼し、事案が発生した場合はネットワークの中で活動してもらっている(協力店登録263事業所中、サポーター養成講座受講は40事業所)。	
山口県光市	6) について、市内51店舗・事業所が登録。 7) について、受付などの事務、グループワークの時のファシリテーター。 12) について、小中学生参加の折の指導役、声かけ訓練の時の認知症役。	
山口県長門市	個人の活動として、認知症の人への見守りをお願いしている。	
山口県田布施町	4) 施設の行事協力、不定期、4人。 9) オレンジカフェ開催又は参加、月1回、3人。 2) 話し相手ボランティア、月1回、3人。	認知症に対する理解がより地域に広がっていく。
徳島県鳴門市	民生委員、老人クラブ友愛訪問員に養成講座を実施済。独居高齢者への見守り訪問等を行っている。 また、ボランティアポイント事業参加者には登録研修時に養成講座を実施しているため、入所施設内での活動(傾聴、レクの実施、趣味活動の支援、配下膳等)でも役立っている。 鳴門市内のオレンジカフェやサロン従事者にも養成講座を行っている。	活動されている民生委員や友愛訪問員、ボランティアの方々から、事前に養成講座を受講した事で、受講前に比べ認知症について理解が深まり、自信を持って対応できるので活動がしやすいといった様な声があった。
徳島県美波町	サポーター自身の無理のない範囲で認知症に限らず地域住民の見守りや声かけをはじめ各種介護予防事業へ参加いただいている。特にサポーター兼民生児童委員である4名の方々は、地域包括支援センターへ情報を提供して下さった。	地域包括支援センターによる戸別訪問を実施し介護保険などサービス利用につながったケースあり。
香川県観音寺市	H27. 6月～サポーターの登録を行い、8月に登録者を集め、今後していきたい活動を話しあい、来年度中に認知症カフェを開催する事に決定した。20名弱程の人が集まり(3～4か月に1回の頻度)実施に向けて不足しているもの、それをどう補うか検討している段階である。	
香川県東かがわ市	地域でのサロンや高齢者居場所づくりでの見守り、傾聴。	
香川県宇多津町	介護予防教室(脳の健康教室、作品づくり教室、健康づくり教室、高齢者の集いの場)、健康まつり等で、サポーター参加、のべ637名、参加者との交流、声かけ、協力をいただいている。	・利用者さんが、サポーターさんに会えることを楽しみに参加されて、感謝の言葉が聞かれたり、サポーターさんと知り合えたことが良かったと感想を述べた方など、介護予防教室にサポーターさんがいることで安心されている様子が見える。
香川県	・「認知症サポーター養成講座」にサポーターに寸	具体的な成果はないが、サポーターが増えていく

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
多度津町	劇に参加、3名。 ・介護予防教室の受付等の協力、隔週ごと毎回2名程度継続参加。・見守りは、気になった人への声かけ等により、包括へ相談をうながす方が数名。 ・自宅を週1回開放し、ボランティアで居場所を提供し活動している、1名。	につれ、ゆるやかではあるが地域住民の認知症への理解が深まってきている。
愛媛県 四国中央市	市内の認知症高齢者が行方不明になった時に情報を配信するネットワークにサポーターが登録している。	より多くの情報が寄せられる
高知県 室戸市	市内郵便局や警察署など、職域でサポーターになって頂く機会が増え、職場での業務をとおして、見守り・声かけの方法の工夫等が以前にも増して出来るようになってきている。	
高知県 大豊町	・地域の高齢者の見守り。 ・認知症が気になる高齢者について包括支援センターへ対応依頼の連絡。 ・地域での認知症についての学習会開催を包括支援センターへ依頼、学習会への参加を呼びかけて下さる。	認知症は早期受診、治療が必要であることについて少しずつ理解が進んでいる。
高知県 日高村	・特定の方(認知症、独居)に毎日交代で訪問している(5~6人)。 ・介護予防サロンのボランティア(おやつ作り、体操)(5~6人)。	地域での生活を継続できている。
高知県 津野町	・仕組みがきちんとできている訳ではないので、定期の活動状況は把握できていない。 ・サポーター養成講座を受ける前から8のような協力を得ていた方が、より理解するために受講したケースが多い。	
高知県 大月町	・小学生にサポーター養成し、施設訪問を行い、認知症高齢者との交流を図っています(年に1回、40名程度)。 ・民生委員を中心にサポーター養成を行い、地区の見守り等に役立ててもらっている(不定期)。	
福岡県 中間市	活動頻度:地域や企業からの依頼で実施するため、頻度は決まっていない(参考:平成26年度7回)。サポーターの参加数:1回につき2名。具体的な活動内容:福岡県認知症医療センターと連携し認知症サポーター養成講座の開催。	初期の認知症の人への対応の仕方など正しい知識を持ってもらえた。その他、「思いやりを持った対応をしたい」「独居の人を注意しながら訪問したい」「見守り活動に生かしたい」「一人にならず、話し相手を見つける地域のサークル活動に参加できるよう健康に気をつけたい」「食生活と運動に気を付ける」といったような意識の変化が見られたこと。
福岡県 筑紫野市	詳細は把握していない。	具体的、となるかは不明だが、徘徊模擬訓練の開催等自体が成果であり、かつ日頃の地域住民どうしのつながりやまちづくりの活性化につながっていると感じている。
福岡県 小竹町	・民生委員のサポーターが、必要に応じて見守りや傾聴を行っている。	・顕著な活動報告は受けていないが、気になる人がいれば役場へ報告を頂いている。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	<ul style="list-style-type: none"> ・町内にある施設等で開催される行事への参加。 ・介護予防を主とした、地域サロン等へ指導員としての参加。 	
福岡県 鞍手町	<p>「認知症サポーター養成講座」…依頼があれば開催、1回あたり20～30名参加。</p> <p>「介護予防教室」…教室で1日講座を開催、1回あたり20～30名参加。</p> <p>「認知症カフェ」…1回/月、4～5名参加。</p>	知識普及。
福岡県 桂川町	定例での活動は行えていない。サポーターの中には民生委員さんや他のボランティア活動を行っている方がいるので、その活動の中でサポーターとしての視点を含めた関わりを行ってもらっている。	
福岡県 筑前町	ゴミ収集業者従業員が受講。日常業務の範囲で防犯、高齢者・子ども等の見守り活動を行っている（町と協定を結んでいる）。頻度・参加者数について、具体的な回数等は不明である。	
福岡県 大木町	<ol style="list-style-type: none"> 1. サポーター養成講座を展開するための準備(打合せ)をしてもらっている。が、活動は定期的でなく随時申込があったときである。 2. すでにサポーターとなっている民生委員が各地区でサロンを展開している。 	1. 人に教えること、伝えることを学ぶことでより理解を深めてもらっている。
福岡県 糸田町	子育て支援室(0才～6才)が月に1回開催している「お誕生日会」に町内のグループホームの入居者を月ごとの順番で招待し、子供との交流の場を持ってもらっている。在宅の認知症を有する方も参加している。サポーターは事務局の2人と子育て支援室に参加している保護者に講座を受けてもらい、「サポーターになってもらっている。毎回4～5人のサポーター参加あり。	地域の若い世代に認知症について理解していただけた。高齢者は赤ちゃんとふれあう事でおだやかで楽しそうにすごす姿が見られる。
福岡県 みやこ町	11/14・15の町の産業祭で、オレンジカフェを開催予定。町職員とサポーター17名が従事予定。	
長崎県 松浦市	地域見守り協定を結んだ協力事務所について、日頃の活動の中で高齢世帯の見守りや、緊急時や異変を感じたときに関係機関と連絡をとる。	
熊本県	各市町村の活動状況により異なる。	
熊本県 荒尾市	<p>新生地区公民館では、民生委員、福祉委員を中心にサポーターが高齢者や認知症の人の家を月1回程度訪問し、見守り、傾聴をおこなっている。</p> <p>また、3ヶ月に1回福祉・認知症問題連絡協議会を開催し、情報共有をおこない、認知症の人を見守る体制を強化している。協議会には、25人ほどのサポーターが参加している。</p> <p>今年9月に地域の事業所が運営するオレンジカフェがオープンし、サポーターがボランティアとして参加したり、地域の小学校でのサポーター養成講座にもファシリテーターとして協力している。</p>	ひとり暮らしの高齢者で認知症が疑われる人等、サポーター間で情報共有することで、地区で見守る体制ができています。また、サポーター等のはたらきかけで、オレンジカフェに参加され、新たな居場所ができた人もいます。

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
熊本県 水俣市	学校・職域・地域における見守り、ステッカーの貼付(玄関・公用車)、傾聴ボランティア、市民後見人養成講座を経てのそれぞれの活動、ステップアップ研修を経てのオレンジカフェへのボランティア参加。	
熊本県 玉名市	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型グループホーム運営推進会への参加(6回/年)。 ・行方不明者早期発見模擬訓練への高齢者役での参加(1回/年)。 ・たまな市安心メールへの登録…行方不明者の情報を受ける。 ・地域安心マップ作りへの参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム運営推進会議への参加が1ヶ所から広がりつつある。
熊本県 上天草市	サポーターがさらに研修を受け、認知症協力応援隊員として活動中。隊員がペアとなり、認知症高齢者を訪問し傾聴。	認知症の人が「楽しかった」「すっきりした」などの発言あり。サポーターからも「また行きたい」という声あり。
熊本県 宇城市	見守りに関しては地域に任せており数としては数えられない。講座を受講した企業等には見守りネットワークののぼり旗を設置していただいており、現在126カ所。 また、スキルアップ研修まで受講したサポーターのうち希望者で認知症予防サポーターを38名養成。週1回の教室へ支援していただいている(各月1回程度)。	地域からやのぼり旗を設置している企業から、気になるケースの相談があがってきている。 認知症予防サポーター(脳いきいきサポーター)は、教室内容をもち帰り、地域のサロンでも認知症予防に努められている。
熊本県 阿蘇市	<ul style="list-style-type: none"> 1)2)週1回、地区の認知症サポーターさんで見回り傾聴できている地区もある。 3)地区の集会活動に参加されるときに支援、月2回ほど。 4)通所、入居施設への催しに年1~2回参加協力されている。 7)各地区の参加募集や当日の補助年1~2回。 10)阿蘇カフェ(月1回)家族の会(年2回)への参加協力。 	当事者に信頼がある、親族や認知症サポーターさんの協力をもらいながらの連携にて、かかりつけ医から、認知症医療センターへの受診につなげることが出来、最終的に有料施設へ入所されたケースがある。サポーターさんより民生委員に早急に連絡が行き、民生委員より包括に連絡が入った。本人さんは、頑固でプライドが高く、他者を受け入れない状態であったために、まず関係者の連携会議を行う。民生委員が、サポーターさん、推進員の3人で本人さん宅に何うとスムーズに自宅内に上がり訪問できたが、次回阿蘇在宅生活支援センターの相談員と一緒に自宅訪問すると拒否あり、認知症サポーターさんの見守り傾聴の成果で早期発見ができた。
熊本県 天草市	認知症カフェ「オレンジカフェ・すみスマイル」、あまくさ認知症を地域で支える会の訪問グループ11名と認知症サポーター6人及びボランティア4名で月1回の認知症カフェをH27. 10月よりオープン。・毎月第4(日)10:00~15:00。(内容)交流会、脳刺激訓練、家族の交流会、伝承料理講習会など。	
熊本県 美里町	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の養成講座では、毎回4~5人参加し、リングやステッカーを、代表の児童や生徒に渡す役を務めたり、小学校や認知症フォーラムで行う劇に参加している。 ・傾聴については、平均月1~3回ほど施設を訪問している。 	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	・見守りは随時行われているので、特に把握はしていない。	
熊本県 南関町	介護予防リーダーへ認知症サポーターになっていただき、地域の見守り声かけ、教室への参加をすすめている。	
熊本県 菊陽町	・週1回のカフェ開催。・サポーター参加者7名。 ・交流、情報交換、食事会、各種イベント、地域包括支援センターとの交流・相談。	地域包括支援センターで相談を受け、社会資源の1つとして、カフェを紹介、利用調整を行った。現在は、つどいの場としてご本人も楽しんで参加され、ご家族も喜んでいいる。
熊本県 南小国町	日常的。	見守り意識の向上。
熊本県 西原村	見守り…やまびこネットワーク。訪問対象者181名。訪問協力者(サポーター)124名。H26総合計訪問見守り回数11861回。	・定期訪問による情報把握が可能。・体調の変化が具体的に記入されている為、福祉サービスにつなげることが出来る。 ・心配な方への対応も、一緒に見て行くことが出来る。
熊本県 御船町	・元気クラブ(介護予防教室)・地域サロンへの参加・協力。見守り(月1~4回)。 町が養成する介護予防サポーターのカリキュラムには、認知症サポーターの学習を組み込んでいる。 ・傾聴ボランティアとして、介護施設等へ訪問し傾聴活動(月1~2回)。	・理解者の見守りがあることで、安心して認知症の方が地域の教室に参加できている。 ・認知症に理解がある人が地域で活動することで、周囲の住民の理解にもつながっている。
熊本県 益城町	サロンでの見守り活動を行っている。	配食ボランティアでは、指定された時間に不在であったりすることが続いたりすることで、ボランティアが不思議に思い地域包括支援センターに繋げることが出来た。
熊本県 芦北町	・月1~5回程度。・18名。・各地域での介護予防教室において、体操やゲーム等を通じて認知症の予防を行っている。	・認知症への理解が深まり、学ぼうとする意欲がみられている。
大分県	6)認知症サポーターがいる店舗は、「大分オレンジカンパニー」として登録。H27. 11. 24現在、128社・団体※添付資料あり。 9)オレンジカフェ。12. 徘徊模擬訓練における具体的な活動内容については把握していない。	
大分県 杵築市	9)H27. 9月~市内2ヶ所で開催(月1回)、参加者数、数名(自由トーク、介護相談)。	
大分県 豊後大野市	6)については、県が実施しているオレンジカンパニーへの登録をお願いしている。 9)については、オレンジカフェやコミュニティカフェのスタッフとして活躍されている。	認知症の方でも、いきいきとその地域で暮らせる、見守りの場となっている。サポーターの活躍の場。
宮崎県 都城市	・上東友愛ネットオレンジカフェ「夢広場」。月1回AM開催(健康体操、おしゃべり他)。100円参加費。参加者約30名。SPは10名。	回数を重ねる毎に参加者も増え、体力もつき笑顔も増えた。
宮崎県 国富町	5)「国富町認知症支援ネットワーク事業」の推進や活動メンバーとなっている。 ・ロゴマークの作成。	

自治体	頻度、サポーターの参加者数、具体的な活動内容	活動によって、得られた成果
	<p>・徘徊模擬訓練等。</p> <p>7) 包括支援センターの職員と一緒に、地域のサロン、中学校等で養成講座を開催している。</p> <p>11) グループホームと、小学校が毎年交流会を開催している。</p>	
鹿児島県出水市	夫婦2人で通所介護事業所に定期的(週一回)にボランティア(太極拳)参加協力されている。	訪問日を楽しみにされているとの事(利用者様)。自分の趣味で喜ばれる姿に生きがいを感じられる様になったとの事(認知症サポーター)。
鹿児島県伊佐市	10)、7)について、認知症サポーターの方が中心となり、月1回2時間程の会を開催。勉強会をしたり、悩みを共有したり、茶話会をする等される。参加者はサポーター、認知症の方や家族、認知症に関心がある方等。包括はバックアップにあたる。養成講座内でメンバーが参加し、会の紹介をしている。	介護で悩んだり疲れていた方が、会に参加し話をする事により、落ち着き、心に余裕ができ、笑顔がでるようになった。その頃の気持ちを元に、今悩んでいる方にアドバイスされることもある。また、地域に自ら出向き、認知症理解普及のために活動されている。
鹿児島県さつま町	別紙資料 11。	別紙資料 11。
沖縄県那覇市	1) 見守り…普段の日常生活の中での地域の見守り。 9) オレンジカフェでの傾聴やボランティア活動(約10名程度)。	認知症や家族の地域での支え、居場所となっている。

当別町認知症サポーター倶楽部の活動

- ・ 認知症サポーター養成講座の開催
- ・ 年に数回の打ち合わせや親睦会で、講座についての検討。
- ・ メンバーそれぞれが発案やネットワークで、講座の範囲を広げる。(小学校や町内の各団体などに広がった)
- ・ 地域の福祉に関する催しへの参加、協力
- ・ 「あったかサポーター」の発案、継続研修の実施協力

2

1) 認知症サポーター養成講座を行う 「当別町認知症サポーター倶楽部」について

- ・ 平成18年10月キャラバンメント受講者から声があり、
→団体「認知症サポーター倶楽部」を発足
- ・ メンバー:地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護職員、
地域住民(介護者の会会員)
行政職員を含む24名
(平成27年11月現在)



認知症サポーター倶楽部の打ち合わせ

2) 認知症高齢者の支援ボランティア 「あったかサポーター」について

あったかサポーターとは?
認知症サポーターによる、
地域で暮らす認知症の方と
家族を支えるボランティア

活動内容:見守り、話し相手、
日常のちょっとしたお手伝いなど

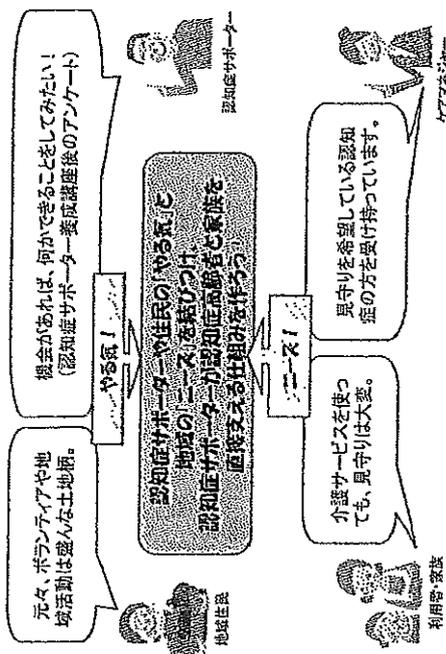
平成27年10月現在、50名が登録



あったかサポーターの研修

3

「あったかサポーター」ができるまで 1



「あったかサポーター」ができるまで 2

認知症サポーターを対象とした「継続研修」を2回開催。

第1回研修)

目的) 先進地での取り組みを学び、自分たちの町でできる活動について考え、モチベーションを高める。

内容) 認知症サポーターが地域でできることと題し、先進地(北海道本別町)による講演。

※このときの参加者アンケートより、認知症サポーター倶楽部で話し合い、名称を「あったかサポーター」に決定した。



「あったかサポーター」ができるまで 3

第2回研修)

目的) 実際の活動、支援へのイメージ作り。

内容) 認知症サポーター養成講座のおさらい

「ボランティア支援の様子DVD鑑賞」

「高齢者の見守りやお世話をすることで、できそうなこと、やってみたいこと、心配なことについて意見交換」



※修了者を「あったかサポーター」として登録した。

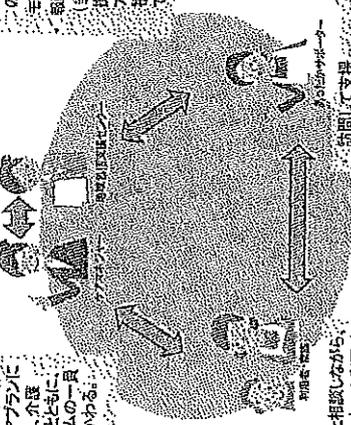
グループワークで意見交換

「あったかサポーター」のしくみ

あったかサポーターをケアプランに依頼し、介護サービスと別にケアチームの一員としてかわかる。

連絡して交換

あったかサポーターのコーディネートとモニタリング
報酬の発行
(当別町商工会と連携してボランティアアポイント株式会社を通じて実施)



「あったかサポーター」のしくみ

あったかサポーター利用ケース・Tさん

・90代女性 要介護4
・認知症が進み、長女の姿が見えないと立ち上がり歩いて探し転倒する。
・言葉はほとんど出ない。



Tさん

全く目が疲れないうので疲れやすいので30分くらいでも見守ってもらえたら、犬の散歩や用事を足したいです。



50代 長女

介護サービスでできない、短時間の見守りを、あったかサポーターさんにお願したい。



ケアマネジャー

あったかサポーターの利用へ

- あったかサポーター登録者で比較的家の近い3名が担当。
- 本人の昇守り、話し相手をして時間を過ごす。
- 夏場は数回、一緒に散歩を行った。



サポーターさんが来ている間、安心して犬の散歩へ。サポーターさんと母と3人での会話も気分転換に。

症状が進んで、母が夜眠らないときは、サポーターさんが来ているときに仮眠することもありました。



9

あったかサポーターと過ごすことでの変化

- 言葉数や理解が増え、テレビの内容についてなど、ちよつとした会話ができるようになった。
- 長女「一対一でゆつくりお話しすることが、認知症に効果があるんですね。」



サポーターさんの様子を見て、自分も笑顔で接してみたら、母も穏やかにになりました。

サポーターさんが来ているのを見た近所の人から「手伝いますよ」と声をかけてもらえ、地域とのつながりが深まりました。



10

あったかサポーター利用ケース・さん

- 80代女性 妻介護?
- デイサービス週3回
- ヘルパー週2回利用
- 認知症にて、家事や片付けなどの手頃がわからない。日架し物をしている。
- 外出して帰ってこられず、呆れられることも増えている。



5さん

自分も体が悪く外に連れて行ってやれなしいし、妻と接しているといライウして、このつらさを聞いてほしい...

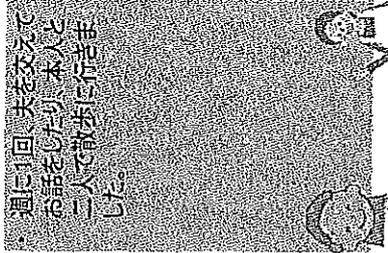


80代 夫

本人と一緒に家事や散歩、お話をしてもらって、夫が休める時間を作りたい。



ケアマネジャー



週に1回、夫を交えてお話をしたり、本人と二人で散歩に行きました。

あったかサポーターの利用と夫の感想

- サポーターさんが来ているときは妻も笑ったり話をするので、私も嬉しくなる。
- 妻だけでなく、私の話や愚痴も聞いてくれて楽になる。
- 少しでも妻の認知症に良いことをしてやりたいと思うので、続けて来てほしい。



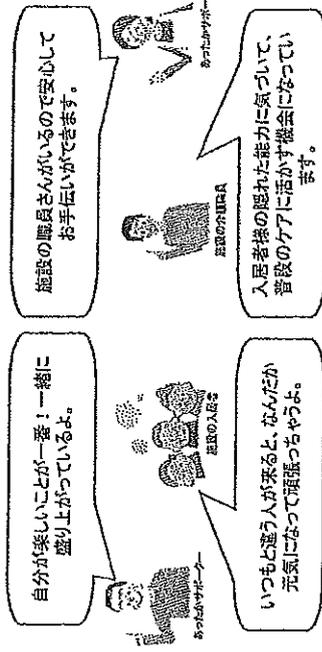
12

あったかサポーターの良さや意義

- ・地域住民同士としてより身近な、相談相手や友人としての関わりができる。
- ・現状の介護サービスではカバーしにくい、ゆとりや時間をとった一対一での会話や、屋外での活動など、心の充実や生活の質の向上のための関わりができる。
- ・認知症の方や、介護職員や家族以外の一般の方や、地域住民として対等に関わることで社会性の維持につながる。

あったかサポーターの施設での活動

【内容】特別養護老人ホームでのシニアエンターテインメント交換。
月1回、回ごとの参加人数が多岐。
※あったかサポーターの休養を兼ねての期待もあり、施設と連携し継続している。



14

あったかサポーターの今後について

【課題】

- ・利用者が少なく、サポーターの活動の場が不足している。
- ・サポーター同士の交流の場を作ることが十分にできていない。

【今後行っていきたいこと】

- ・サポーター同士の交流や情報交換の場をつくる。
- ・ケースの細かい情報収集やアセスメントに基づいた、利用者本人、サポーター双方に言われる、効果的な支援を目指していきたい。

平成26年度市町村における認知症施策に関するアンケート結果

8. 認知症サポーターとの連携事業があるか。

1. ある

2. ない

5	市町村	9.3%
---	-----	------

49	市町村	90.7%
----	-----	-------

{ 松戸市、佐倉市、市原市、浦安市、
匝瑳市 }

連携内容

●松戸市あんしん一声運動。認知症サポーター養成講座を受講し、市に登録した『オレンジ声かけ隊』が行う。●希望者を「オレンジ協力員」に登録、地域包括支援センターの認知症予防教室の運営の補助など積極的なボランティア活動を実施●キャラバンメイト、サポーターの有志により、月1回の認知症カフェを開催(自主運営)。●認知症カフェにボランティアとして認知症サポーターが参加。●サポーター養成講座時に認知症カフェへのボランティアをPRするリーフレットを配布。●養成講座受講者によるジュニアサポーター養成講座、寸劇ボランティア、認知症カフェの活動。

9. 認知症サポーターグッズの独自購入を行っているか。

1. ある

2. ない

17	市町村	31.5%
----	-----	-------

32	市町村	59.3%
----	-----	-------

{ 千葉市、市川市、船橋市、松戸市、柏市、
佐倉市、習志野市、市原市、流山市、四街道市
我孫子市、鴨川市、匝瑳市、いすみ市、
大網白里市、栄町、九十九里町 }

3. 今後実施予定

6	市町村	11.1%	(君津市、四街道市、八街市、南房総市、神崎町、多古町)
---	-----	-------	-----------------------------

独自購入のない理由

●県で支給される。●配布されているグッズで充足している。●全数の予算確保できない。●独自購入できるとは知らない。

10. 認知症サポーターフォローアップ研修を実施しているか。

1. 実施している

2. 実施していない

6	市町村	11.1%
---	-----	-------

40	市町村	74.1%
----	-----	-------

{ 松戸市、茂原市、流山市、浦安市、
袖ヶ浦市、南房総市 }

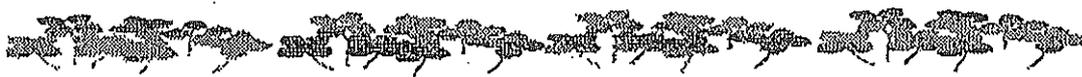
3. 今後実施予定

9	市町村	16.7%	{ 佐倉市、東金市、八千代市、鎌ヶ谷市、袖ヶ浦市、白井市、 四街道市、香取市、神崎町 }
---	-----	-------	---

具体的内容

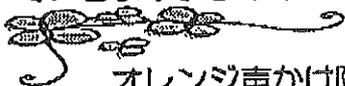
●「オレンジ声かけ隊」を対象に研修。●認知症の方との接し方などを詳しく勉強する。●若年性認知症当事者による講演、近隣市のサポーターの活動報告、グループワーク。●徘徊模擬訓練を実施。●多職種連携研修会で、フォローアップ研修も実施。

あんしん一声運動「オレンジ声かけ隊」活動状況の報告



「松戸市あんしん一声運動」は、市に登録していただいた認知症サポーターの皆さんに、「オレンジ声かけ隊」として日頃の生活の中で高齢者への声かけ活動を行っていただき、できる範囲の手助けを行うことで、高齢者を地域全体で温かく見守っていくことを目的とした運動です。

たくさんの方が協力しあって、認知症の人やその家族だけでなく、高齢者を地域全体で温かく見守り、日頃の声かけ活動を通じて、“認知症になっても安心して暮らせる街♡まつど”を一緒に作っていきましょう！！



オレンジ声かけ隊活動として、たくさんの報告をいただきました。

項目に分け、まとめましたので、ご紹介します。今後の活動に、ぜひお役立て下さい。

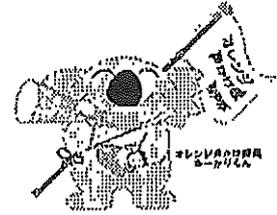


声かけ

- ・一人住まいの人たちへ声かけをしています。
- ・近所の高齢者に、日常的に積極的に挨拶するよう心掛けています。
- ・近所の方に、「おはようございます」と挨拶をしています。昨日のこともわからないけれども、お金の方はしっかりしているので、安心してお手伝いをしています。
- ・町会等の集会にお誘いしています。
- ・スーパーで年配の女性に声をかけたら、「気にかけて、声をかけてくれてありがとうございます。」と言われて、ちょっと勇気を出して声をかけてみるのが大切と改めて思いました。
- ・自宅近くでも、一人暮らしの高齢者、ご家族と暮らしていても日中外出もままならない方が増えてきました。お会いした時にこちらから声かけをしたり、会話の中で困りことや体調のことを確認しています。研修会や傾聴ボランティア活動で感じることは、人の話を聞くことは自分自身の振り返りにもなるということです。
- ・普段道を歩いていて心掛けていますが、なかなか声かけはスムーズにできません。
- ・近所の認知症の方にはできるだけ話しかけ、会話をして、孤立化を少しでも和らげるように思っています。
- ・地域で、歩行が定かでない方、戸惑っていらっしゃる方を見守り、安全な場所で声かけをしています。
- ・防犯指導員のパトロールを通じて声かけをしています。
- ・盛夏の暑い風過ぎ、川の土手に高齢者が座り込んでいました。どこか具合が悪いのかと思い、声をかけました。「大丈夫です。休み休み行きますから。」と返事をされたので、「気をつけて帰ってね。」と別れました。体調が悪いのではないことを確認し、安心しました。
- ・地域の食事会などを通じて声かけをしています。近所で会う人には挨拶をし、ごく自然に声かけをしています。
- ・近所の高齢者がデイサービスから帰ってから、夕飯のことや翌日のゴミ出しのこと等の話をしています。ひとり住まい、高齢者の夫婦の方には、できる限り声かけをしています。



- ・認知症と思われる方の話相手になっています。
- ・民生委員もしているので、声かけはよくしています。
- ・地域の委員をしており、ともに高齢者のために月に 1 回以上会合を実施して、認知症予防教室等の講演を行い、その会合に参加するように声をかけています。
- ・認知症の知人に会ったら、会話を交わすようにしています。施設の友人を訪問し、趣味の音楽と一緒に楽しみ、会話をしています。



手助け

- ・知人の話し相手や散歩の同行をしています。
- ・日常では高齢者の方に声をかけて注意を払い、何か手助けすることはないかと気を遣っています。
- ・地域の相談活動に参加し、その中で介護や医療・生活の相談を受けたりしています。
- ・お墓参りをしていて、女性のご主人を捜していました。1 時間捜したけれど見つからないというので、一緒に捜しました。男性がいたので声をかけたら捜していた本人で、見つかったことを知らせました。喜んでいました。
- ・駅のホームのエレベーター前で、買物カートを持つ女性に「大丈夫ですか」と声をかけ、ご一緒しました。また、多機能、障害者用トイレの開閉ボタンで戸惑っていた方に操作法を伝えました。
- ・クラブ活動の仲間で、日にちや曜日がわからなくなっている人がいるので、優しく迎えに行って活動するようにしています。
- ・真夏の暑い日に、ガードレールの下でしゃがみ込んで動けない方を家に送ったところ、その後病院へ行ったら高血圧で危険な状態だったとお礼の電話をいただきました。オレンジリングがあったので、ためらわずに声をかけることができました。
- ・散歩中、自分の家がわからなくなってしまった方がいました。家まで一緒に連れて行き、家族の方に、住所・氏名・電話番号のメモを携帯するようお願いしました。
- ・高齢者の方が家の外の道路の落ち葉を掃いていたので、私も手伝い、ゴミ袋 3 袋ほど集めました。それを集積所まで運び、「お疲れさま。」と言うと、「助かりました。」と喜んでくれました。一人で住んでいる方なので、見かけたときには必ず声をかけています。
- ・車を運転中、横断歩道で転倒して顔面から出血している高齢者に声をかけました。自宅まで送ろうと道を尋ねましたが、動揺していてどこにいるのかわからない様子でしたので、住所を聞くと教えてくれました。自宅まで送ったところ、家族が出てきて、最近認知症の症状がみられると話してくださいました。帰り道がわからなくても、自分の住所がスラスラ言えることに驚きました。
- ・ボランティアに行く途中、目の前に急坂をフラフラしながら一人で歩いている高齢の女性がいたので、「大丈夫ですか?」と声をかけました。病院に検査の予約に来たところ、胸も痛くなったということで、受付の人に引き継ぎ対応をしてもらいました。
- ・駅前で 30~40 歳の白杖の方がなかなか前に進めない様子でした。自分も駅に行くついでだったので、ホームまでご一緒して、電車に乗せて見送りました。とても勇気のいることでしたが、一人になった時、とても気持ちがスッキリしました。

つなぐ

- ・独居の高齢者が認知症とアルコール中毒の為、地域包括支援センターに相談しました。現在は落ち着いているようです。
- ・町会も少しずつ高齢者が多くなってきました。町会長にまず情報をもらい、地域包括支援センターに繋ぐようになるのか、会員と話し合います。その後、町会として見守るのか決めています。
- ・夜の 8 時半ごろ、歩道に自転車のハンドルを握って立っている高齢者がいました。一度は通りすぎ、戻って尋ねたら、道に迷って帰れないとのことでした。自分で帰るといわれたのですが、交番に連絡して来ていただき、後はお願いして帰宅しました。

見守り

- ・時々、待ちの中を歩いている時に気にかけるようにしています。
- ・買物に行く時や外出時に、周りの人たちや高齢者の行動を注意してみるようにしています。
- ・70 歳～94 歳の近所の一人暮らしの方を時々見回っています。
- ・肺炎で呼吸困難になり入院していた友達が、退院し家で過ごしているので、元気であるか電話したり顔を見に行ったりしています。
- ・常盤平南部は独居高齢者が多いので、認知症の方がいないか、民生委員とナースで「高齢者サポート隊」を作り、2～3ヶ月前から活動をしています。



職場

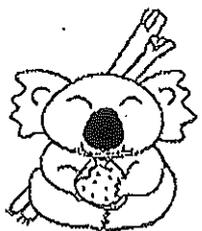
- ・声かけ隊としては機会がありませんが、7 月より認知症予防教室をスタートさせ月 1 回・1 年間の予定で進めています。
- ・介護事務をしています。認知症の知識を活かし、町会に出向いて認知症に関する普及啓発をしています。

オレンジ協力員

- ・あんしん一声「オレンジ協力員」研修会に出席。「まきば声かけネット」地域づくり懇談会に出席。認知症予防教室に出席しました。
- ・オレンジ協力員として、認知症予防教室に協力しています。傾聴ボランティアとして、個人宅、グループホームを訪問しています。
- ・地域包括支援センターの講座のお手伝いをしています。

その他

- ・月 2 回施設を訪問しています。
- ・亡くなった義母の古着でショルダーバッグを作って知り合いの方に差し上げたところ、たいへん喜ばれ、「毎日使っています」と電話をいただきました。
- ・活動というわけではありませんが、母が認知症なのでその世話をしています。



ご協力ありがとうございました。掲載できなかった方ごめんなさい。
みなさま、これからもよろしくお祈いします。

H27年度 オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」・モデル実施報告書

実践活動の種類	実施内容	今後の課題・活動予定
交流会	包括で考えている活動について説明。意見交換	聖徳大学の世代間交流事業協力依頼。認知症予防教室の手伝い
認知症カフェでの介護者の集いへの参加	圏域内の認知症カフェで行われる介護者の集いに参加してもらい、家族の会話を傾聴してもらった。(参加人数:本人家族7名、市・包括職員3名)	次回からはケアマネ等へさらに周知を行う必要がある。(第2回オレンジ協力交流会を12月に予定、介護者の集いについては次回未定)
ヘルパーと一緒に訪問(検討中)	認知症初期集集中子チームが支援中のケースについて、ヘルパーと一緒に訪問してもらい、話し相手になってもらうことで、ヘルパーが本来の支援(家事・生活支援)を行えるようにすることを検討中。	オレンジ協力員によって、可能だと思っているボランティア活動の差が大きい。どの程度までの個別支援が行えるのか基準がほしい。オレンジ協力員が負担に感じると継続性が損なわれる。(オレンジ協力員交流会を12月に予定)
認知症予防教室	認知症予防教室(お元気撮影隊)の打合せより参加してもらい、教室の補助、撮影会への参加を行う。	オレンジ協力隊の目的や意識付けの周知が課題であると感じる。
認知症サポーター養成講座への協力	①受付・会場内での誘導 ②寸劇への出演 ③体験談の発表	オレンジ協力員個々の知能や技能にばらつきがある。現時点では協力員単独での直接的支援は難しいと思う。直接的な実践活動を行うのであれば、更なる研修が必要。(近々、グループホームにおける傾聴ボランティアに予定)
①社会資源マップ作成 ②親睦会	①専門職、オレンジ協力員、地域住民で「小金げんき友の会」を発足。小金地区にある社会資源を整理し地図に落とし込む社会資源マップ作りを行っている。 ②どのような活動であれば実践可能なアンケートを実施。今後の実践につなげる。	社会資源マップについては、今年度あと2回作業予定あり。今後、声かけ訓練、施設見学、サポーター養成講座への協力、地域ケア会議の出席を検討中。
介護予防教室	運営の補助、参加者への声かけ・見守り 介護予防体操教室にて認知症を疑われる方の見守り、支援等	個人情報への守秘、声のかげ方 体操教室での対応を断つ中での見守りに活かしてほしい。 「介護者のつどい」への参加も検討中
地域ケア推進会議への参加	会議に出席している地域密着型施設より、ボランティア活動を紹介し、周知した。	ボランティアの活動できる場所が不足している。

別紙1

認知症サポーターの活動状況について

葛飾区高齢者支援課

<具体的な活動内容>

- ・高齢者総合相談センター(地域活動支援センター)7ヶ所で開催している認知症カフェにおいて「認知症サポーター活動支援」という形で認知症サポーターを受け入れ、認知症カフェのボランティアとして活動の場を提供している。(1回のカフェに1~13名)
- ・認知症カフェに参加しているサポーターの中には、カフェ立ち上げ準備・企画段階から参加している方もいる。
- ・当日は、認知症サポーターもスタッフと共に会場のセッティング、飲み物提供、配下膳、利用者との歓談等を行っている。

<活動実績> (平成27年4月~9月末)

- 「オレンジカフェほりきり」(高齢者総合相談センター堀切) 延べ4名
- 「ふれんど水もと」(高齢者総合相談センター水元) 延べ53名
- 「ほほえみ」(高齢者総合相談センター新宿) 延べ27名

計84名

<得られた成果>

- ・認知症予防にも興味を持ってくれた。
- ・当事者に対して分け隔てなく接してくれ身近な存在になった。
- ・カフェの内容やロゴマークに関するアイデアを出してくれた。
- ・サポーターキッズに配布するストラップづくりに参加してくれた。
- ・スムーズな進行で和やかな雰囲気を作ってくれた。
- ・介護に悩む家族の話を親身に聞いてくれた。

平成27年6月12日

平成27年度 認知症サポーターオレンジの会の活動について

胎内市福祉介護課 地域包括支援センター係

雨にぬれたアジサイがいつそう鮮やかに咲いている今日このごろですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。先日、認知症サポーターオレンジの会の研修会を行いました。当日は、認知症の方への接し方を学び、今年度の活動を考える大事な研修会だったので、当日の様子を皆さんにお知らせします。

今年度のグループ活動について、それぞれよく見ていただき、自分がどのグループで活動したいか検討していただき、別紙に記入し、地域包括支援センター係までお知らせください。(当日参加した方については、連絡は必要ありません。)

◆全体研修会の予定◆

- (1) 5月27日(水) …研修とグループワーク
- (2) 10月頃予定 …認知症ケアパス研修会
(はじめての研修です。詳しくは、後程ご案内します。)
- (3) 12月19日(土) …認知症講演会
(今年度は認知症カフェをテーマにした内容を予定しています。)
- (4) 2月頃予定 …今年度の成果発表会

◆グループ活動の予定◆

平成27年度の目標		活動内容																								
サポーター	実際に地域に出向いて講座を開催してみよう! ★依頼がきている地域 <table border="1"> <tr><td>1</td><td>大川町</td><td>3/29</td></tr> <tr><td>2</td><td>西本町</td><td>9/24</td></tr> <tr><td>3</td><td>横直</td><td>10/19 午前</td></tr> <tr><td>4</td><td>築地新</td><td>10/7</td></tr> <tr><td>5</td><td>東牧寺</td><td>10/19 午後</td></tr> <tr><td>6</td><td>栗町</td><td>未定</td></tr> <tr><td>7</td><td>黒川ゆめかき会</td><td>7/27</td></tr> <tr><td>8</td><td>若松町</td><td>未定</td></tr> </table>	1	大川町	3/29	2	西本町	9/24	3	横直	10/19 午前	4	築地新	10/7	5	東牧寺	10/19 午後	6	栗町	未定	7	黒川ゆめかき会	7/27	8	若松町	未定	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で講座を開催してみる。(包括職員同行する。) ・地域では、予防の視点も必要であるため、理解編と予防編の2チームに分かれて講義内容を考える。 <チーム編成> チームA…理解編 チームB…予防編
	1	大川町	3/29																							
2	西本町	9/24																								
3	横直	10/19 午前																								
4	築地新	10/7																								
5	東牧寺	10/19 午後																								
6	栗町	未定																								
7	黒川ゆめかき会	7/27																								
8	若松町	未定																								
寸劇		<ul style="list-style-type: none"> ・10月の開催を目標に、チームで講座内容を考える。 ・寸劇はサポーター養成講座の一部として行う。 ・寸劇のみの依頼があれば対応。 ・新しい人、大歓迎! ・シナリオは今までのもので行う。 																								
認知症カフェ	地域で虹色カフェの姉妹店をオープンさせよう!	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区を2地区選定!…築地、平木田駅前 ・秋ごろの立ち上げを目標に、7～8月にみんなで方法を相談しましょう。 ・メンバーは“立ち上げ応援部隊”としてモデル地区を盛りあげてもらいます。 ・来年度以降は、他地区でもオープンを予定しています。 ・自分の地域でさらにサロンを盛り上げたい人、大歓迎!! 																								

※※お知らせ※※

・6月28日(日) ほんとHOTまつりで、認知症サポーター養成講座のPRのために「オレンジほっぺ」による寸劇(11:30～12:00予定)、「出前虹色カフェたいない」をオープン(10:00～14:00)します。

福井市「認知症の人にやさしいお店等」認定事業実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、認知症の人がいつまでも住みなれた地域で生活し、安心して暮らせるまちづくりの推進を目的とする「認知症の人にやさしいお店等」認定事業を実施するために必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要綱において次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 認知症の人にやさしいお店 (店舗、事業所、団体等)

顧客等の応対に従事する従業員の半数以上が認知症サポーター養成講座を受講し、市が認知症の人が利用しやすい店づくりに取り組むこととした店舗、事業所、団体等として認定したものをいう。ただし、介護サービス事業所(福祉用具貸与は除く)及び医療機関等は除く。

(2) 認知症にやさしいまちづくり協力事業所 (介護サービス事業所、医療機関等)

介護サービス事業所及び医療機関等の従業員にキャラバン・メイトが1名以上在籍し、市が認知症への理解を深める地域づくりに取り組むこととした事業所として認定したものをいう。(1)(2)を併せて「認知症の人にやさしいお店等」という。

(3) 認知症サポーター養成講座

特定非営利法人地域ケア政策ネットワーク全国キャラバン・メイト協議会が定める「認知症サポーター養成講座基準」に合致した講座をいう。

(4) キャラバン・メイト養成研修

特定非営利法人地域ケア政策ネットワーク全国キャラバン・メイト協議会が定める「キャラバン・メイト養成研修基準」に合致した研修をいう。

(市及び認知症の人にやさしいお店等の役割)

第3条 市及び認知症の人にやさしいお店等は、相互に共同しながら認知症の人が安心して暮らせるまちづくりに努めるものとする。

2 市は、市民及び店舗等に本事業の周知をするとともに、次に掲げる事項を行うものとする。

(1) 市ホームページ等で認知症の人にやさしいお店等の名前や活動を公表すること。

(2) サポーター養成講座に伴う諸手続きを行うこと。

3 認知症の人にやさしいお店は、次に掲げる事項を行うものとする。

(1) 認知症サポーター養成講座を計画的かつ継続

的に受講し、認知症サポーターの増員に努めること。

(2) 認知症への理解を深める取り組みを実施すること。

4 認知症にやさしいまちづくり協力事業所は、次に掲げる事項のいずれかを行うものとする。

(1) 地域包括支援センター等との連携を図り、認知症への理解を深める取り組みを地域に

向けて率先して実施すること。認知症への理解を深める取り組みとは、認知症サポーター養成講座の開催、認知症理解普及月間における取り組みへの協力、認知症高齢者ひとり歩き見守り事業への協力、認知症に関する情報の発信などをいう。

(2) 認知症の人にやさしいお店の相談及び支援を実施すること。

(3) キャラバン・メイトの養成研修を計画的かつ継続的に受講し、キャラバン・メイトの増員に努めること。

(認定手続き等)

第4条 認定を希望する店舗等は、福井市認知症の人にやさしいお店等認定申請書(様式第1号)を市に提出するものとする。

2 市は、前項の規定による申請を受けたときは、内容を確認の上、適当と認められる場合には、福井市認知症の人にやさしいお店等認定通知書(様式第2号)を交付するものとする。

3 市は、前項の規定による認定を行ったときには、「認知症の人にやさしいお店」及び「認知症にやさしいまちづくり協力事業所」ステッカーを交付し、市ホームページ等に掲載するものとする。

附 則

この要綱は、平成26年6月1日から施行する。

この要綱は、平成27年10月1日に一部改正する。

オンラインサロン

認知症サポーターによる活動

この冊子は、認知症サポーターになられた皆様の「何かができることがないだろうか。」という思いに応えるために、すでに認知症サポーターとして活動している方々の体験を集めたものです。

名古屋市

1

徘徊している認知症の方を見守っています！



認知症の方は、時として徘徊により行方不明となってしまうことがあります。認知症サポーターの中には、徘徊している方に声をかけるなどの支援をしたことで、早期発見につながったという経験を持っている方が多くいます。こうした認知症の方への支援は、小さなことのように感じますが、住み慣れた地域で認知症の方が安心して生活する上では、とても大切に温かい支援です。

ここでは、徘徊している認知症の方に対応した経験を持つ認知症サポーターの声を紹介します。

徘徊している方を見つけたので110番通報しました

見知らぬ方から「ここはどこですか？」と聞かれたのですが、様子が少しおかしかったので、「あなたの家はどこですか？」と逆に尋ねてみました。その方は返答をされるものの、自分では帰宅できない様子なので、110番に通報しました。その後、警官に保護され無事に家族のもとへお帰りにになりました。



認知症の方に安心して暮らしました

ご近所の認知症の方が、帰り道が分からない様子だったので、プライドを身につけないように、「〇〇さん、どうされたの？」とゆっくり話しかけ、その方の話を聞きながら一緒に歩きました。しばらくしてその方の家の近くまで歩いてくると、とても安心した表情になりました。



徘徊している方に声をかけました

見知らぬ方が、サンダルを両手に持って裸足で歩いていたので、「サンダルを履こうね。」とゆっくり話しかけました。自宅を尋ねても返事が無いので、「どうしたらいいのかな」と思っていたら、この方を捜していたご家族が運よくその場に連れられ一緒に帰宅されました。ご家族からは何度もお礼を言われました。



民生委員として認知症の方を支援しました

町内の奥様が認知症で、昼夜を問わず徘徊していました。その方は高齢者世帯のため、奥様の徘徊を近所の方が見つけると、私（民生委員）に連絡が来ます。私はその都度迎えに行き、奥様を自宅に連れて行きました。

ご主人は時折、奥様に対して感情的に対応することがあったので、「奥様は病気だから。」と、ご主人には伝えるようにしました。

認知症の方を介護する家族は、毎日大変な思いで過ごしていると思います。このご夫婦が地域で安心して過ごすことができるように、私たちが受け入れ、見守り、支援することが大切だと思いました。



「おかえり支援サポーター」として徘徊している方を見守っています

認知症サポーターとして地域で何かできないかと思い、「はいはい高齢者おかえり支援事業」の「おかえり支援サポーター」に登録しました。名古屋から捜索協力依頼のメールが届いたときには、自分の周りに行方不明者がいないか確認するようにしています。

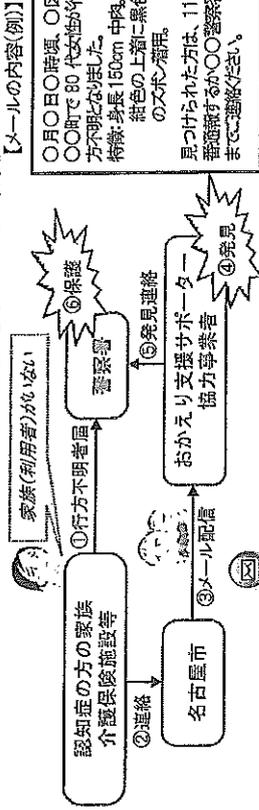
地域の中で自然と声かけができるようになれば、認知症の方が行方不明となるのを未然に防ぐこともできると思います。



はいはい高齢者おかえり支援事業

認知症の方の徘徊による事故を防止するため、地域の皆さんの協力を得て、徘徊している方を早期に見守る取り組みです。

徘徊のおそれがある方の情報を事前に登録した上で、その方が行方不明となった場合に、家族等からの依頼により、行方不明となった方の身体的特徴や服装などの情報をおかえり支援サポーターなどに対してしてメールで配信し、情報提供を呼びかけます。



おかえり支援サポーターとは…

おかえり支援サポーターとは、この事業に協力いただく方々のことで、携帯電話などのメールアドレスを登録いただき、捜索協力依頼のメールを受けとった場合に、可能な範囲で捜索のための情報提供にご協力いただけます。

おかえり支援サポーターに登録するには、下記のQRコードを読み取り、アクセスしたページから空メールを送信するか、下記のメールアドレスに空メールを送信してください。



【QRコード】

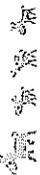
【メールアドレス】 okaer[at]sg-n.jp

おかえり支援サポーターは、地域の中で認知症サポーターが実際に活動できる方法の一つです。皆さんもおかえり支援サポーターに登録して、認知症の方を地域で支える役割を担ってませんか？

見知らぬ方に声をかけるのは勇気がいります。でも、あなたの「大丈夫ですか？」「どうされましたか？」という一言が徘徊している方への支援となり、早期発見につながるのです！

2

職場で認知症に関する知識を役立てています！



大型スーパーマーケットの従業員が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症に関する知識を生かしながら接客している事例をご紹介します。

大型スーパーマーケットが店舗を挙げて認知症の方を支援しています

従業員全員が認知症サポーター養成講座を受講！

- ◇ 港区にある大型スーパーマーケットは、多くの高齢者に利用されています。
- ◇ “従業員が認知症の理解を深めてほしい”という店長の思いから、幹部職員からパート職員まで全ての従業員（150名）が認知症サポーター養成講座を受講しました。

認知症サポーター養成講座を受講した後は…

- ◇ 従業員が店頭に立つ際には、常にオレシリングを身に付け、講座で学んだ対応方法で接客しています。
- ◇ 認知症と思われる高齢のお客様に対しては、必要に応じて、いきいき支援センターを紹介し、支援しています。

◇ 今では、いきいき支援センターとの連携が深まり、出張相談会場の提供やチラシの掲示など、店舗を挙げて高齢者や認知症に関する事業に協力しています。



【店内の様子】

レジ係の胸元でオレシリングが輝いています！

次に、“職場でオレシリングをつけていたら、同僚から認知症について相談されるようになった”という認知症サポーターの経験をご紹介します。

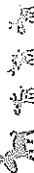
職場の同僚にちょっとだけ感謝されています

- ◇ 認知症サポーター養成講座を受講した後、職場でオレシリングを身に付けていると、同僚の間でオレシリングのことが話題になるようになりました。
- ◇ 最初はオレシリングに関する説明をしていましたが、認知症サポーターであることがみんなに伝わり、同僚から親族の認知症や介護についての相談をされるようになりました。相談された時は、講座で得た知識を活用しながらアドバイスしており、ちょっとだけ感謝されています。



認知症サポーターが職場でオレシリングを身に付けていると、それがきっかけとなって、職場の同僚が認知症に興味を持ち、普及啓発が進むこともあるようです。皆さんも職場でオレシリングを身に付けてみてはいかがでしょうか？

地域の中で認知症の方の見守りを行っています！



町内会の活動やグループ活動などの地域活動を行う中で、認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の方の見守りなどを行っている事例をご紹介します。

お助け隊として高齢者の方の見守り活動をしています

- 町内会の有志で認知症サポーター養成講座を受講しました
- 町内会で、認知症と介護保険制度について学習する機会を持ちたいと考え、希望者を集めて認知症サポーター養成講座を受講しました。
 - 講座を受講した後で、地域の中で認知症の方や高齢者を支援することができないかと相談した結果、町内会が中心となって「お助け隊」を立ち上げました。

我ら たちの「お助け隊」！

- 町内の認知症の方をできる限り把握し、認知症の方やその家族を見守り、声かけを行っており、はいかい高齢者おがえり支援事業（2ページ参照）にも積極的に協力しています。
- 認知症の方だけでなく、高齢者世帯や一人暮らし高齢者に対して、新聞受けの確認を行うなど、見守りや声かけを行っています。
- こうした方々の中には、電球や蛍光灯の取替え作業のような「ちよっとした困り事」を抱えている方も多くいます。お助け隊はこうした「ちよっとした困り事」にも気軽に対応しており、「お助け隊がいるから助かる！」と頼りにされています。

お助け隊とは、高齢者世帯や一人暮らし高齢者などが、暮らしの中で感じる「ちよっとした困り事」を、ボランティア活動で支援する、「近所グループ」の名称です。

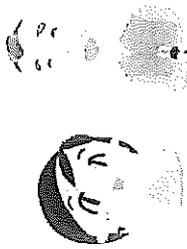
認知症の方の良き話し相手になっています！



認知症サポーター養成講座では、認知症の方への接し方についても学習します。ここでは、認知症サポーターが講座で学んだ技術を発揮して、認知症の方の良き話し相手となっている事例をご紹介します。

傾聴ボランティアグループ「こころん昭和」の活動

- 認知症サポーター養成講座で学んだ知識を生かして傾聴活動をしています
- 傾聴ボランティアグループ「こころん昭和」が活動をjする上で、認知症の方との関わりが多いことから、グループの会員全員で認知症サポーター養成講座を受講しました。
 - 活動場所は、昭和区内の特別養護老人ホームです。ショートステイ（短期的に施設に入所するサービス）を利用してjいる方を対象に、月2回訪問して傾聴活動を行っています。が、講座で学んだ対応方法がとて役立っています。
- 傾聴するときにはこんなことを心がけています
- 同じ話を繰り返される方には「そうですね」と相づちを打って、その方の話に耳を傾けています。
 - 昔を回想しやすいような会話を心がけています。
- 活動を続けていると嬉しい夢も……
- 定期的に訪問するので、利用者と顔なじみの関係を築くことができ、利用者の中には私たちが来るのを楽しみに待っていてくれる方もみえるようになりました。



認知症サポーターが高齢者サロンを自主的に運営しています

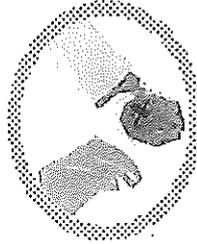
- サロン参加者全員が認知症サポーターです！
- 自宅を開放して高齢者サロン（常時10名程度が参加）を開設したところ、参加者の中に認知症の方がいました。参加者全員に認知症についての知識が必要と考えて、「認知症サポーター養成講座を受講しよう！」ということになり、民生委員や近所の方々と一緒に講座を受講しました。
 - サロン参加者は認知症サポーターになって、認知症の方にごまめに声をかけるなど、仲間に対する対応が変化し、認知症の方も楽しく、一緒に参加できるようになりました。また、サロンのプログラムとして、認知症予防プログラムを取り入れています。参加者同士で楽しみながら継続して実施することができています。
 - 今では、お互いに支えあい、見守り、継続してサロンに参加できることが、地域の中でも話題となっています！



認知症サポーターが一人で「できること」は限られています。サポーター同士が協力しあうことで「できること」が大きく広がります。

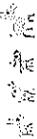
近所の認知症の方の話し相手になりました

- 近所の方から依頼され……
- 近所の方から「夫が認知症になって困っています。自分は日中仕事があるので、夫の話し相手になってもらえないでしょうか。」とお願いされました。自分は認知症サポーター養成講座を受講しており、また妻が認知症だったこともあって、その依頼を快諾しました。
 - ご主人は、施設に入所するまでの約4年間、毎日、私の自宅を訪問され（中には滞在が3時間程度にわたる日もありました）、私は講座で学んだことを生かしながら、話し相手となり、ご主人の話を傾けました。
- ボランティア活動にも一緒に参加しました
- そのうちに、小学生の登校時の見守り活動にも一緒にjけるようになりました。自分が話し相手になったことで、その方がご家族のお役に立つことができたかなと思います。



認知症の方の話を傾けることは、その方の安心感にもつながります。認知症サポーターとして、認知症の方に「安心感」を与えられる存在になれば、とても嬉しいことですね。

認知症の方への対応方法を分かりやすく伝えていきます！



認知症の方への接し方は、寸劇で実際に接する様子を演じることで、分かりやすく伝えることができます。

最後に、認知症サポーターが寸劇で認知症の方への接し方を分かりやすく伝えている取り組みをご紹介します。

いろいろ寸劇グループとして活動しています

- ◇ 中村区で開催された「認知症サポーター講座（寸劇コース）」を修了後、自主グループ「めいらく寸劇グループ」を結成し、中村区社会福祉協議会の協力の下、寸劇を生かした普及啓発活動を行っています。
- ◇ グループのメンバーは、寸劇上演会に備えて月1回、練習会に参加しています。練習会には本物の俳優が講師として登場！メンバーの練習にも熱がこもります。
- ◇ 寸劇の上演は、老人クラブやコミュニティセンターなどで実施されている「はつらつ長寿推進事業」の他、認知症サポーター養成講座の中でも行っています。
- ◇ 寸劇の内容は、認知症高齢者がいる家庭の日常の様子を題材にしています。私たちが認知症高齢者や家族などの役を演じ、認知症の方の特徵や正しい対応方法について観ている方が理解しやすい内容となっています。実際に寸劇を観た方からは、「認知症の方への対応がとてもしっかりやすかった！」との声を頂いています。
- ◇ 演じている私たちも、客席の反応が直接伝わってくるのが楽しく、楽しみながら演じています。ちよっとした緊張感も、「いい感じ」です！



【上演の様子】



認知症の方への声のかけ方などを実演することで、多くの方に分かりやすく伝えることができます。認知症の良き理解者として、演じる人が楽しみながら寸劇を行っている、観ている方々にもその楽しさが伝わります。

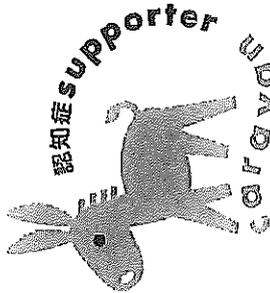
認知症サポーターとしてのスタートは

認知症について正しく理解し 偏見を持たず

認知症の方や家族を温かい目で見守ることで！

あなたの周りには

あなたの優しい気持ちを生かせる場がきっとあります！



編集・発行：名古屋市長寿福祉局高齢福祉地域ケア推進課
社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

印刷業者：名古屋ライトハウス印刷

発行年月：平成25年11月

発行部数：6,000部

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

アンケート「認知症サポーターの活動」について 補足資料

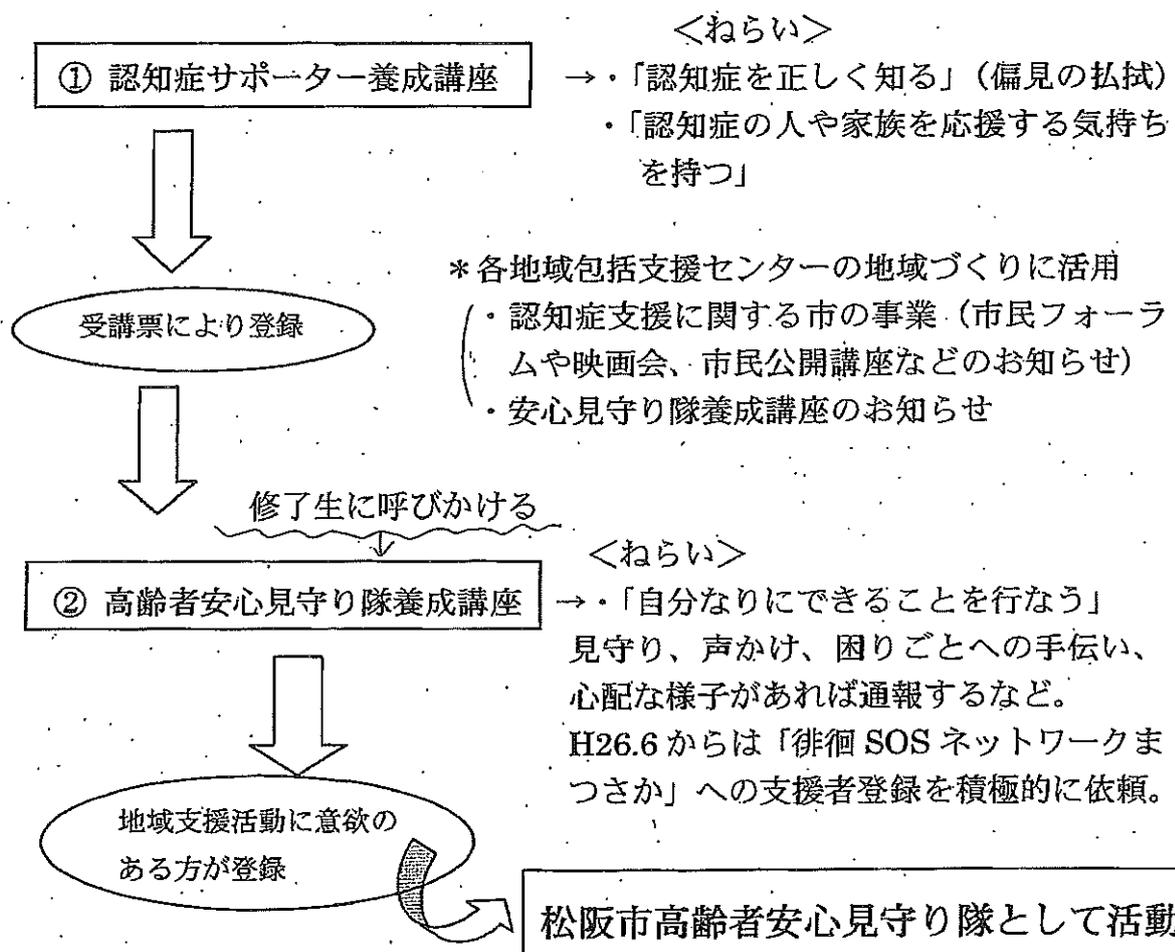
松阪市

松阪市の『認知症サポーター』と『高齢者安心見守り隊』について

<経過>

平成 20 年度に認知症地域支援体制構築等推進事業を受け、認知症支援の取り組みに着手。「認知症サポーター養成講座」を一番基本的な大事な啓発の事業として位置づけ、市の事務局と各包括支援センターが協力して展開していくことにした。地域包括支援センターは認知症施策で地域へ入っていくことにより、本来の地域づくりにも関わりを持つ事が出来ていった。その際に、地域で講座参加を呼びかけても「サポーターなんて私にはできない。」「認知症のことは知りたいけれど、何かしなくてはいけないのは荷が重い。」といった声が多いことが課題として挙げられ、認知症の方や困っている人の手助けをしたいと思っている方へのアプローチとは別けて捉えることで整理をしたのである。

<システム>



オレンジカフェ よこぞ!

～ うちの縁側 地域の茶の間 ～
平成27年10月～平成28年4月分

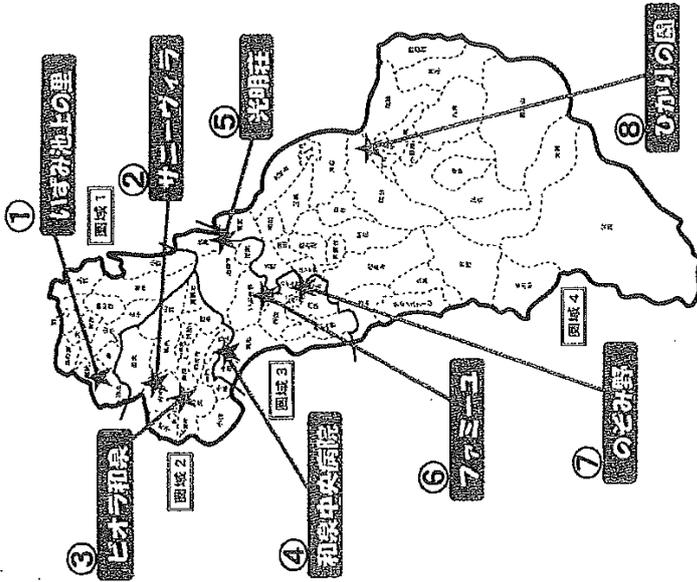


オレンジカフェって?

認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰かが参加でき、集う場としてのオレンジカフェを開催しています。
認知症の人にとって病気になることを意識せず自分の役割があって、本人や家族と一緒に参加でき、今までの暮らしや人とつながりが途切れず、自分の弱みを受け入れてもらえ、どんな人も自分のペースに合わせて参加できる空間です。認知症サポーターがカフェを運営し、皆さんのお越しをお待ちしています。

和泉市高齢介護室
電話0725-99-8132 (直通)

オレンジカフェの場所はここ!



参加者の声

- ものまねで、カフェで楽しんだことをお家でしよう
- 先生を褒めたいですが、参加した日は楽しかったです。
- まだ、ほかにもお誘いしたい方がいます。
- おはじめてでも、重く迎えてくれて参加しやすかった。
- 介護する立場から見て、看護士さん、一日だった、感謝!
- 他人の生活はわかり、和泉市で知り合いができて嬉しい。
- 認知症サポーターです。近所の方をカフェへお連れしたい。一緒にお話を楽しくしています。
- 参加されている方の笑顔が喜びです。

要介護認定を受け利用する介護保険サービスではありません。
認知症の人やそのご家族を地域社会全体で支える「認知症支援“愛”のまちづくり」を目的としたボランティアによる運営です。

* 飲食代が必要な場合は実費(100円程度)を預けたいです。
* お車でお越しの場合は、駐車場に限りがありますので申し込み時にお知らせください。

場所	曜日/時間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	費用	申し込み
① 11号池上の里	(日) 10時～12時	—	1	10	—	6	—	—	無差	無差
② サニーカフェ	(火) 13時～16時	6・13 20・27	10・17 24	15・22 26	12・19 26	2・9 16・23	1・8・15 22・29	5・12 19・26	無差	直接お越し 下さい
③ ビオラ和泉	(土) 13時～16時	17	21	12	9	13	12	9	無差	無差
④ 和泉中央病院	(木) 14時～15時	1	5	3	7	4	3	7	無差	無差
⑤ 光明荘	(水) 14時～16時	15	26	28	24	18	24	28	無差	直接お越し 下さい
⑥ 77ミュー	(金) 13時～16時	2	6	4	8	5	4	1	無差	直接お越し 下さい
⑦ のど荘野	(土) 13時半～16時	17	21	19	16	20	19	16	無差	無差
⑧ ひかりの園	(金) 13時～15時	16	20	18	15	19	18	15	無差	無差

オレンジカフェの一日一覽

アンケート「認知症サポーターの活動」

○登録制度について

サポーター養成講座開催時に受講者名簿を作成し、エクセル管理。町外者及び既受講者を除き、新規登録者数をキャラバンメイト連絡協議会に報告している。

○認知症サポーターの活動

〔内容〕

認知症サポーター養成講座の受講済みの65歳～70歳の方を対象に、認知症についての基礎知識や認知症の人・その家族とのコミュニケーション法を学び、地域で何ができるかを考え実践するためにオレンジ・リーダー養成研修を開催した。

平成27年度は15名が4回の研修会を受講。研修受講者はオレンジカフェや認知症予防事業への協力などの活動を行っている。一方で、個々のサポーターの自主的な活動に任せている面も大きい。

〔成果〕

平成27年7月から認知症の方や家族、介護に携われる方等を対象に「オレンジカフェほうかつ」を月2回開催しているが、オレンジリーダーが中心となってカフェの運営を行っている。

3. キャラバン・メイトの連絡協議会などの組織化について

キャラバン・メイトの連絡協議会等の組織については、「ある」が287自治体となっている。具体的な協議会等の規模は、「市区町村内組織」が266自治体、「都道府県内組織」が8自治体である。なお、「その他」の11自治体については“有志の組織”や“広域圏内”等とされる。

【組織化されている自治体一覧】

北海道小樽市	青森県(都道府県)	宮城県東松島市
北海道釧路市	青森県青森市(その他)	宮城県大崎市
北海道苫小牧市	青森県弘前市	宮城県大河原町(その他)
北海道江別市	青森県むつ市(都道府県)	宮城県村田町
北海道千歳市(その他)	青森県つがる市	宮城県色麻町(その他)
北海道滝川市	青森県東北町	宮城県美里町
北海道恵庭市	青森県六ヶ所村	秋田県能代市
北海道北広島市	青森県大間町(都道府県)	秋田県羽後町
北海道石狩市	青森県五戸町	山形県酒田市
北海道北斗市	青森県南部町	山形県寒河江市
北海道新篠津村	岩手県盛岡市	山形県天童市
北海道江差町	岩手県久慈市	山形県尾花沢市
北海道せたな町	岩手県奥州市	山形県河北町
北海道京極町	岩手県矢巾町	山形県三川町
北海道美瑛町	岩手県金ヶ崎町	山形県庄内町
北海道佐呂間町	岩手県大槌町	山形県遊佐町
北海道興部町	宮城県塩竈市	福島県郡山市
北海道平取町	宮城県多賀城市	福島県須賀川市
北海道音更町	宮城県栗原市	福島県鮫川村
茨城県北茨城市	石川県七尾市	静岡県伊豆市
茨城県笠間市	石川県加賀市	静岡県菊川市
茨城県つくば市	石川県羽咋市	静岡県牧之原市
茨城県筑西市(その他)	石川県かほく市	静岡県東伊豆町
茨城県坂東市	石川県白山市	愛知県岡崎市
茨城県桜川市	石川県津幡町	愛知県碧南市
茨城県行方市	石川県宝達志水町	愛知県刈谷市
茨城県つくばみらい市	石川県中能登町	愛知県安城市
栃木県小山市	福井県	愛知県西尾市

栃木県大田原市	福井県小浜市(都道府県)	愛知県江南市
群馬県下仁田町(都道府県)	福井県あわら市(その他)	愛知県尾張旭市
埼玉県さいたま市(その他)	福井県坂井市(その他)	愛知県高浜市
埼玉県加須市	山梨県韮崎市	愛知県岩倉市
埼玉県狭山市	山梨県南アルプス市	愛知県みよし市
埼玉県八潮市	山梨県甲斐市	愛知県扶桑町
千葉県市原市	山梨県上野原市(その他)	愛知県大治町
千葉県君津市	山梨県甲州市	三重県松阪市
千葉県四街道市	長野県松本市	三重県桑名市
千葉県白井市	長野県諏訪市	三重県菟野町
千葉県栄町	長野県伊那市	三重県紀宝町
東京都新宿区	長野県中野市	滋賀県大津市
東京都板橋区	長野県飯山市	滋賀県長浜市
東京都練馬区	長野県千曲市	滋賀県守山市
東京都国分寺市	長野県下諏訪町	滋賀県栗東市
東京都西東京市	長野県富士見町	滋賀県野洲市
神奈川県横浜市	長野県辰野町	滋賀県湖南市
神奈川県川崎市	長野県白馬村	滋賀県高島市
神奈川県横須賀市	岐阜県岐阜市(その他)	滋賀県東近江市
神奈川県相模原市	岐阜県関市	滋賀県甲良町
神奈川県秦野市	岐阜県坂祝町	京都府京都市
新潟県長岡市	静岡県浜松市	京都府舞鶴市
新潟県長岡市	静岡県三島市	京都府綾部市
新潟県燕市	静岡県富士宮市	京都府亀岡市
新潟県妙高市	静岡県伊東市	京都府京丹後市
新潟県弥彦村	静岡県富士市	京都府精華町
新潟県田上町	静岡県焼津市	京都府伊根町
新潟県出雲崎町	静岡県藤枝市	京都府与謝野町
新潟県関川村	静岡県御殿場市	大阪府大阪府(都道府県)
富山県入善町	静岡県下田市	大阪府大阪市
大阪府豊中市	和歌山県湯浅町	福岡県小郡市
大阪府泉大津市(都道府県)	和歌山県広川町	福岡県古賀市
大阪府 貝塚市	和歌山県有田川町	福岡県福津市
大阪府 八尾市	和歌山県みなべ町	福岡県糸島市
大阪府泉佐野市	鳥取県鳥取市	福岡県志免町
大阪府河内長野市	鳥取県若桜町(都道府県)	福岡県鞍手町
大阪府大東市	島根県出雲市	福岡県桂川町
大阪府和泉市	島根県雲南市	佐賀県唐津市
大阪府高石市	島根県奥出雲町	佐賀県鳥栖市

大阪府東大阪市	島根県吉賀町	佐賀県鹿島市
大阪府泉南市	岡山県津山市(その他)	佐賀県神埼市
大阪府阪南市	岡山県笠岡市	熊本県荒尾市
大阪府太子町	岡山県高梁市	熊本県水俣市
大阪府河南町	岡山県真庭市	熊本県玉名市
兵庫県相生市	岡山県美作市	熊本県南関町
兵庫県豊岡市	広島県尾道市	熊本県長洲町
兵庫県加古川市	広島県福山市	熊本県菊陽町
兵庫県西脇市	広島県東広島市	熊本県南小国町
兵庫県三木市	広島県廿日市	熊本県山都町
兵庫県高砂市	広島県安芸高田市	熊本県芦北町
兵庫県加西市	広島県熊野町	大分県中津市
兵庫県篠山市	山口県下関市	大分県佐伯市
兵庫県丹波市	山口県萩市	大分県豊後大野市
兵庫県朝来市	山口県下松市	鹿児島県鹿屋市
兵庫県宍粟市	山口県和木町	鹿児島県阿久根市
兵庫県加東市	山口県田布施町	鹿児島県出水市
兵庫県たつの市	香川県丸亀市	鹿児島県指宿市
兵庫県多可町	香川県観音寺市	鹿児島県垂水市
兵庫県上郡町	香川県三豊市	鹿児島県日置市
兵庫県佐用町	愛媛県宇和島市	鹿児島県伊佐市
奈良県橿原市	愛媛県四国中央市	鹿児島県大崎町
奈良県宇陀市	愛媛県東温市	沖縄県那覇市
奈良県三郷町	高知県香南市	沖縄県宜野湾市
奈良県田原本町	福岡県福岡市	沖縄県浦添市
和歌山県	福岡県久留米市	沖縄県名護市
和歌山県海南市	福岡県八女市	沖縄県糸満市
和歌山県紀の川市	福岡県筑後市	沖縄県沖縄市
和歌山県紀美野町	福岡県大川市	

キャラバン・メイトの連絡協議会等で実施しているサポーター講座開催以外の具体的な活動としては、下記の通り挙げられている。

定例会・学習会の開催、キャラバン・メイト同士の情報交換が主流となっているが、「地域の困りごとや気になる方の拾い上げについて、地域の主な相談窓口の役割を担っている」（滋賀県甲良町）とあるように、回答のあった活動以外にも、日常的に認知症サポーターをはじめ地域住民からあがってくる課題を身近な相談先として受けとめ、行政等専門機関に結びつける役割を担っていることが推測される。

自治体	サポーター講座開催以外の活動の具体例
北海道苫小牧市	総会、連絡会、研修会(サポーターフォローアップ)。イベント(達成4千人、6千人、1万人、介護の日)。搜索模擬訓練。
北海道江別市	年間活動報告、反省、情報交換(年1回程度)。スキルアップ研修(年1回程度)。
北海道恵庭市	現状はまだないが、今後の取組としてサポーターのフォローアップ講座を検討している。
北海道北広島市	運営会議～事業の円滑な推進に向けて課題検討や情報の共有を行う。 全体会～活動の振り返りや活動計画等について検討する。 小委員会～北広島市キャラバン・メイトの活動向上のための小委員会を開催する。
北海道石狩市	キャラバン・メイトの集いを月に1度行い、講座報告やどんな対象に講座を開催するか等を打合せ、説明に使用する資料やグループワーク内容、周知用リーフ作成などを行っている。
北海道北斗市	認知症市民セミナーの開催(企画、運営)(・認知症に関する講演(医師)・主に認知症の方への接し方をテーマにした介護劇の取組み)。
北海道新篠津村	1年1回活動の実績報告と次年度計画について話し合う。
北海道江差町	今年、8月から開始したため実質的な活動には至っていない。今後の予定としては、サポーター養成講座開催呼びかけをしてもらう。講座内で各々の得意分野を活かした内容の構成など検討しながら、多くの住民に認知症を知ってもらうきっかけ作りの役割を担ってもらえるようにしていく。
北海道京極町	「京極町キャラバン・メイト連絡会」として、地域包括支援センターが窓口になって年2回程集まっている。立ち上げて2年目で、現在はまだサポーター養成を行うべき対象の検討や、養成講座の中身(資料、組立て等)の検討などが主となる。
北海道美瑛町	・RUN伴2015の参加。・町内イベントでブースを設けての啓発活動。
北海道佐呂間町	認知症に関わる講演会への開催協力・参加協力。
北海道興部町	年1回程度、サポーター向けのフォローアップ研修を行っている。
北海道平取町	キャラバン・メイトの研修、交流の実施。
北海道音更町	・認知症介護家族交流会。・認知症に関するアンケートの配布、回収。・徘徊高齢者搜索模擬訓練への協力。
青森県	組織を立ちあげたばかりのため、活動や体制について検討中。
青森県弘前市	・サポーター講座の実績報告。 ・キャラバン・メイト間の情報交換。
青森県八戸市	「キャラバン・メイト活動PR」「宣伝グッズ作成」「SOS便利帳作成」「サポーターフォローアップ研修」のプロジェクト隊を結成し活動している。
青森県東北町	町の「生き生き産業文化まつり」で認知症サポーターのPR活動。 脳のチェックリストや脳トレ(まちがい探し)を実施。 認知症サポーター、相談窓口、認知症予防に関するチラシ等の配布。
青森県六ヶ所村	サポーター養成講座開催にあたって、資質向上のための模擬講座を開催。

青森県五戸町	認知症徘徊対応模擬訓練等への協力。
岩手県盛岡市	・サポーター養成講座以外の活動は特になし。・連絡会は年一回、その年度により、学校、職域などテーマを設けスキルアップや情報交換、グループワークを行っている。
岩手県奥州市	奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会の委員として参加。
宮城県塩竈市	キャラバン・メイトのフォローアップ講座として、市内のメイトさんに呼びかけ講習会やグループワークを行っている。
宮城県多賀城市	・年3回程度、連絡協議会を開催(1回2h程度)。・サポーター養成講座の開催状況、今後の予定、認知症カフェへのボランティア協力に向けたフォローアップ講座開催について、等の情報交換。・認知症ケアパス素案段階での意見交換。
宮城県栗原市	認知症の普及啓発事業 ・健康まつりでの認知症介護劇・認知症サポーター養成講座のチラシとポケットティッシュの配布
宮城県東松島市	・研修会。・総会。
宮城県七ヶ浜町	介護者家族の会カフェの実施協力、年7回。
秋田県能代市	認知症カフェを市と共催している(月1回)。キャラバン・メイトのフォローアップ研修を市と共催(年1回程度)。
秋田県羽後町	・ブルーベリーづくり、ジャムづくり(認知症の人、高齢者、子どもたちの交流)。・クリスマス会(認知症の人、地域の親子、高齢者の交流)。・SOSよりそいネットワーク(徘徊SOSもぎ訓練)。
山形県寒河江市	・認知症にやさしいまちづくり市民大会への協力。・認知症はいかい声かけ学習DVD作成協力。・認知症はいかい声かけソング作成協力。・認知症はいかい声かけ訓練協力。
山形県天童市	認知症高齢者が徘徊したことを想定し、住民参加型の声がけ訓練の実施。
山形県三川町	定期的にメイトが集まり、情報交換をしている。
山形県庄内町	サポーター養成講座開催以外の活動はない。町が事務局となり、年1回キャラバン・メイト連絡会を開催している。
山形県遊佐町	認知症に関わる研修会等の協力依頼。
福島県郡山市	・キャラバン・メイトを対象とした研修会。・サポーター養成講座の開催内容等について、情報交換会、等。
福島県須賀川市	・キャラバン・メイト交流会と称して、市内のキャラバン・メイトと本市の認知症対策等について話し合ったり、情報交換をしている。
福島県鮫川村	年度当初に前年度の講座の実績報告、キャラバン・メイトから実施した講座の概要報告、今年度の自治体の講座計画と役割分担、キャラバン・メイト主体の講座開催予定の報告、キャラバン・メイトからの要望等を伺う会議を行っている。
茨城県北茨城市	・市主催の祭り、イベントへ参加し、チラシ等の配布をしている。また、その際に認知症についての相談も受けている。
茨城県つくば市	認知症啓発活動への参加。
茨城県坂東市	・認知症についての正しい知識の啓発活動(9月、市内ホコテンでの周知活動)。・勉強会。
茨城県行方市	9月の認知症を知る月間でキャンペーンの開催。
茨城県 つくばみらい市	1. 認知症を知る月間に、掲示物を作成して庁舎内に掲示する。 2. 市内で開催されるまつりで認知症早期発見のためのプログラムを実施したり、認サポについてのリーフレットの配布などをする。
栃木県小山市	・サポーター養成講座上級版の内容の検討・作成(H27年度12回)。 ・サポーター養成講座に関する研修会(年1回)。 ・サポーター養成講座の実施状況や課題等の情報交換(年1～2回)。
栃木県大田原市	・講師を招いての研修会。・キャラバン・メイト内で、自身が受けた研修の復命研修会。
栃木県塩谷町	連絡協議会ではないが包括と町内事業所に勤務するケアマネジャーが中心となり、各地区の健康教室で認知症講話や認知症に関する劇を披露している。

群馬県下仁田町	健康祭の中に認知症講演会を実施。寸劇と講義を行い、認知症に対する啓発を行った。H28年度以降は認知症サポーターを年3回養成講座を行う予定。
埼玉県さいたま市	・情報交換会。 ・出張オレンジカフェの開催。
埼玉県加須市	・交流会(年2回)の開催。
埼玉県狭山市	年に1回程度、それぞれの活動状況について報告している。
千葉県市原市	年1回キャラバンメイト交流会を実施。
千葉県君津市	年2回程度、キャラバン・メイト同士の横のつながりを作るため、連絡会を開催し、活動報告や今後の活動について意見交換の機会を設けている。
千葉県四街道市	グループに分けて、サポーター養成講座の企画～実施までを協力しあって実施する体験。
千葉県白井市	認知症啓発イベントの協力など。
東京都新宿区	・認知症サポーター講座、開催状況の共有。 ・講座内容で工夫していること等の情報共有。 ・講座の計画及び実施するにあたっての注意点の確認。
東京都板橋区	他自治体の徘徊模擬訓練を見学し、今後の活動の参考にするため報告会を開いた。
東京都国分寺市	当市のキャラバン・メイト連絡会では、サポーター講座の開催・運営に関する情報共有、意見交換を主に実施しており、サポーター講座以外の活動は今のところ実施しておりません。
神奈川県横浜市	・キャラバン・メイト、サポーターのフォローアップの実施。
神奈川県川崎市	・キャラバン・メイトフォローアップ研修(年1回)。 ・総会(年1回)。
神奈川県横須賀市	地域包括支援センターと個人メイトとの情報交換や交流。
神奈川県相模原市	・認知症サポーター養成講座の企画、開催を行いやすくするため、研修会への参加など会員相互のスキルアップを支援する。 ・サポーター養成講座の開催情報を発信し、講師派遣の調整を行う。 ・相模原市独自教材の開発。 ・キャラバン・メイト間の交流。
神奈川県秦野市	2か月に1回定例会を開催し、サポーター養成講座の運営等について意見交換をしている。
新潟県長岡市	「長岡市認知症キャラバン・メイトコアチーム」市内のメイト有志によるチームで、広報活動(メイト通信の発行)や、メイトが講座を開催する際の支援(メイト向けの模擬講座)等を行っている。
新潟県十日町市	連絡協議会はないが、年1～2回、市内のキャラバン・メイトを集め連絡会を実施。資質向上の研修及び活動や情報の共有を図っている。
新潟県燕市	年に1回、情報交換会を開催している。サポーターを増やすための取組みや、活動していないメイトへの支援方法など話し合い、様々な意見をいただいている。
新潟県妙高市	・グループホーム等、施設見学と利用者との交流会。 ・研修会(パワーポイントを用いた勉強会)。
新潟県弥彦村	サポーター講座の年間計画の確認と、内容の確認、担当の決定。サポーターの活動をどうしていくかを検討。
新潟県関川村	連絡協議会では、昨年度実施講座の振り返り、今年度の計画(年1回実施)。
富山県入善町	登録があるキャラバン・メイトに案内状を送付し、1度会合を設け、町でのサポーター養成講座の実績報告を行った。
石川県加賀市	生活圏域で活動をそれぞれしており、ある圏域は家族会を実施している。
石川県羽咋市	・認知症サポータースキルアップ講座開催時の講師、接し方体験の高齢者役。 ・各種研修会への参加。 ・認知症に関する普及、啓発活動。
石川県かほく市	認知症をテーマにした寸劇をしている。市開催の認知症シンポジウム等に出演している。

石川県白山市	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回、キャラバンメイト連絡会を開催し、情報交換を行っている。 ・一般市民向け「認知症講座」の講師を努めている。
石川県津幡町	月1回の認知症相談。町の健康まつりに参加。町のボランティア連絡会に参加。
石川県宝達志水町	スキルアップのための勉強会を昨年実施した。今年は実施できていないが、新しいメイトが増えたので、今後の実施を検討している。
福井県	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバン・メイト養成研修での「3認知症サポーター養成講座の運営方法の部分の指導、またその準備、企画。 ・キャラバン・メイト交流会の開催。
福井県福井市	キャラバン・メイト連絡協議会等の組織化はしていないが、市内のキャラバン・メイトと包括支援センターや地域密着型事業所と連絡会を開催し、市の認知症施策の説明や、地域包括支援センターによる講座開催の報告、メイト同士による意見交換を行っている。
福井県あわら市	認知症カフェへの講師派遣。福井県キャラバン・メイト養成研修の開催。地域ケア会議へ助言者として出席。
福井県坂井市	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座の実施について情報交換。 ・地域包括支援センターとの情報交換(認知症事業について)
山梨県韮崎市	情報交換(各自、メイトとしての活動報告を行い、今後のサポーター養成講座の参考にする)。
山梨県南アルプス市	お祭りや高齢者スポーツ大会での認知症についての普及活動(リーフレット配り、相談ブースを設置)。
山梨県甲斐市	年に数回、キャラバン・メイト向けの会議や学習会を実施している。内容:活動報告、大学講師からの講演会、認知症家族の実体験講話。
山梨県甲州市	年に1回キャラバン・メイトの集まりを行い、活動報告や情報交換をしている。認知症サポーター養成講座のチラシをキャラバン・メイトと一緒に作成した。
長野県伊那市	認知症カフェでのボランティア活動。
長野県中野市	不定期に研修会開催。
長野県飯山市	視察研修、家族介護者教室の支援など。
長野県千曲市	年に3～4回キャラバンメイト向けの会議を企画し、メイト同士の意見交換、活動報告、研修等をおこなっている。
長野県下諏訪町	メイトのフォローアップ講座(年5回程度)。
長野県辰野町	スキルアップ研修:講師をよんで認知症についての勉強会。
長野県白馬村	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する事業の年間報告や、今後の事業について意見をきいている。 ・認知症カフェの運営に協力してもらっている。
岐阜県岐阜市	月1回話し合いを継続し、認知症サポーターステップアップ研修を開催。講義後、GHでの体験実習をして、今後の活動について検討する場を設ける予定。
岐阜県関市	キャラバン・メイトのメンバーは、何らかの支援団体に属している。よって、日常業務等での協力体制がある。キャラバン・メイトは地域包括を中心にグループ化しており、市が進める若年層見守り先へのサポーター養成講座を実施していただくと同時に、別の形で具体的な支援協力をしてもらっている。事務局は市であり活動内容も市主導である。
静岡県浜松市	総会開催(年1回)。
静岡県三島市	<ul style="list-style-type: none"> ・会員への会報づくりと送付。 ・サポーター講座のデモンストレーション。
静岡県富士宮市	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街におけるイベントでのコーナー設置、チラシ配布。 ・キャラバンメイト同志の交流会、勉強会(年4回)。 ・RUN伴Dシリーズ等、普及啓発イベントへの協力。
静岡県下田市	活動報告、認知症に関するガイド冊子作成にあたり意見交換。

静岡県伊豆市	昨年までは特養主催の介護の日記念イベントで15分位の認知症に関する寸劇を実施していた。 認知症施策検討会に委員として参加。認知症高齢者のケース会議(個別ケア会議)への参加(必要時)。
静岡県牧之原市	年度末に活動の振り返り、メイト間の交流等を目的にカンファレンスを行っている。
静岡県東伊豆町	・認知症カフェの運営。 ・町の「健康福祉ふれあい広場」における啓発コーナーの運営。
愛知県岡崎市	市内のおまつり(図書館まつり、福祉まつり)にて、認知症普及啓発を目的としたブースをつくっている。
愛知県碧南市	・認知症サポーターフォローアップ講座の開催。 ・市役所ホールにおける認知症の啓蒙に関する展示。 ・市民ふれあいフェスティバルへの出展。
愛知県安城市	年1回の連絡会にて情報共有や意見交換。
愛知県尾張旭市	隔月で認知症キャラバン・メイト打合せ会を開催し、サポーター講座の打合せの他、キャラバン・メイト同士で意見交換・情報交換を行っている。
愛知県岩倉市	いわから認知症ケアアドバイザーを組織し、ボランティア団体として活動している。認知症ケアアドバイザー養成講座を、小学校や企業団体等へ実施、岩倉桜まつりやふれあいまつりへ出店、毎週木曜日に認知症カフェである「ケアドカフェひろみ」など運営している。
愛知県扶桑町	月に1度の打ち合わせをし、1カ月間にあったサポーター講座の情報共有計画等を行っている。
三重県松阪市	市主催事業に参加。 ・キャラバン・メイトフォローアップ研修会への参加。 ・市民フォーラム・市民公開講座などへの参加。
三重県桑名市	・認知症サポーター養成講座の開催等について情報交換。 ・市の認知症施策の情報提供。
三重県紀宝町	不定期に連絡会を開催している。
滋賀県大津市	(メイトの日)毎月20日にメイトの定例会を実施。サポーター養成講座の進め方、情報共有、その他協議など行う。(キャラバン・メイトフォローアップ研修)12月10日(木)。(キャラバン・メイト養成講座)10月15日(木)。(認知症サポーターアドバンス講座)H28年2月20日(予定)。(世界アルツハイマーデー記念講会共催)(街角宣伝活動)(ラン伴への参加)。
滋賀県守山市	認知症cafeでの本人家族人の関わり。
滋賀県湖南市	世界アルツハイマーデー街頭啓発。
滋賀県高島市	世界アルツハイマーデーにあわせ、街頭啓発を行っている(早期発見、早期受診チラシを配布)。
滋賀県東近江市	徘徊高齢者早期発見声かけ訓練の運営スタッフ。
滋賀県甲良町	地域の困りごとや気になる方の拾い上げについて、地域の主な相談窓口の役割を担っている。 また、認知症フォーラムや生涯学習、地域サロン等啓発機会にも積極的に参加頂いている。他に、認知症カフェにおいて、運営や相談相手としても関わって頂いている。
京都府京都市	徘徊模擬訓練、シンポジウム、通信の発行、ステッカー等啓発グッズの作成。
京都府舞鶴市	・年1回のキャラバン・メイト交流会を実施している。 ・保健所主体の「オレンジロードつなげ隊」の活動支援。
京都府綾部市	年1回の会議の開催、寸劇のシナリオ交換、研修、サポーター講座のスケジュール調整。
京都府亀岡市	認知症カフェにおける、参加者の見守り。
京都府京丹後市	京丹後市徘徊SOSネットワークに関する連携。キャラバン・メイトフォローアップ研修等研修会、又、研修会のおしらせ。認知症高齢者声かけ訓練(声かけ体験)の実施。

京都府精華町	<ul style="list-style-type: none"> ・精華町キャラバン・メイト連絡会独自によるスキルアップ研修 <p>キッズサポーターにわかりやすく講師が務められるように、今まで行ってきたキャラバン・メイトが経験を話すことや今から行うキャラバン・メイトの不安や悩み等を解決する。精華町キャラバン・メイト連絡会では、独自のスキルアップ研修を「おかあちゃんメイト養成講座」と呼び、1年間で内容の違う4回の講座を修了したキャラバン・メイトを「おかあちゃんメイト」として独自で認定している。そのことで、キャラバン・メイトのモチベーションの維持にも生かしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本プロジェクト <p>キャラバン・メイトがキッズサポーター養成講座で使用している読み聞かせ(紙芝居)等を、キャラバン・メイトが手作りしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの共催 <p>やましろまちづくりフォーラム(H27.11, H27.11.28) 認知症当事者の講演会や先進地より講師を招き講演してもらおう。 精華町フレンドシップコンサート(H28.3 開催予定) 地域の小学校で開催される、児童による演奏会での認知症啓発や今年度のサポーター養成講座のパネル展示、記念バッジ作成等を行う。</p>
京都府伊根町	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の認知症関連の研修会及びフォーラム等の開催、協力。 ・サポーターのフォローアップ研修。 ・先進地の視察及び交流。
大阪府	運営会議、キャラバン・メイトフォローアップ研修、スキルアップ研修、オレンジカップ(認知症当事者が参加するフットサル大会)、MI-グランプリ(市町村の認知症サポーター事業の報告会)。
大阪府大阪市	平成26年度大阪市キャラバン・メイト活動報告参照(別紙資料9)。
大阪府堺市	「認知症サポーターフォローアップ講座」の開催。区ごとに「キャラバン・メイト交流会」(年3～4回)の開催。
大阪府泉大津市	キャラバン・メイトフォローアップ研修。各市町村主催のキャラバン・メイトフォローアップ研修講師派遣。キャラバン・メイト養成研修講師派遣。RUN伴:認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつつりレーをしながら1つのタスキをつなぎゴールを目指すイベント。
大阪府 貝塚市	貝塚市キャラバン・メイト連絡会を年に1回開催し、教材研究や養成講座を受けてもらえる対象者の検討等を行っている。
大阪府 八尾市	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成状況。 ・認知症サポーター養成講座開催のための情報交換。
大阪府河内長野市	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバン・メイトフォローアップ研修、年1回。 ・キャラバン・メイト定例会、年2～3回。 ・RUN伴にあわせて、オレンジキャンペーン(イベント)を開催。
大阪府大東市	<ul style="list-style-type: none"> ・講座を行っていく対象の選定。 ・講座を受けたサポーターの活かし方。 ・講座の内容についての相談。
大阪府和泉市	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症施策についての情報共有。 ・徘徊模擬訓練の実施に向けての協力依頼。
大阪府高石市	SOSネットワーク事業の協力。
大阪府東大阪市	キャラバン・メイト同志の意見交換や研修会。
大阪府泉南市	徘徊模擬訓練にアドバイザー的な役割で参加。
大阪府太子町	H27度は、徘徊模擬訓練を実施予定。
兵庫県相生市	キャラバン・メイトフォローアップ研修を毎年行っている。
兵庫県豊岡市	情報交換等連絡会の開催。
兵庫県加古川市	講演等による勉強会、グループ間の活動報告。
兵庫県西脇市	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年キャラバン・メイトのスキルアップのための研修会を1～2回計画している。 ・今年度中に、認知症カフェや徘徊模擬訓練への参画を予定している。

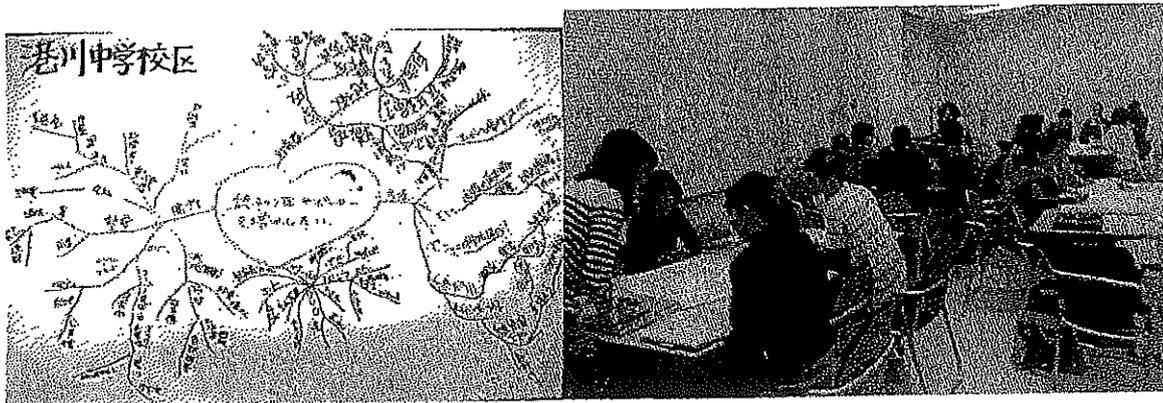
兵庫県三木市	意見交換がほとんどで、組織的な活動につながっていない。
兵庫県三田市	キャラバン・メイト対象のスキルアップ研修の開催。
兵庫県加西市	・連絡会議を開き、市の状況、活動状況の報告や今後の活動予定方針について意見交換している。 ・子ども向けの教材を作成する方向で準備をはじめた。
兵庫県篠山市	・キャラバン・メイトの研修会等を含め年4回連絡会を実施している。 ・活動時に使用するテキスト等の作成を検討している。
兵庫県丹波市	講座で使用する媒体について意見交換。出席した認知症対策会議や講座について報告。メイト研修会。意見交換等。
兵庫県朝来市	・連絡網、ネットワーク化。 ・研修会（講師による講話、話し合い）。 ・アンケートによる活動に対する意志確認。・会報の発行3回／年。
兵庫県宍粟市	認知症啓発のためのチラシ作成。講座技術向上のための手立て検討（紙芝居作成、寸劇の台本作成など）。メイト同士の情報交換、共有のためのお便り作成。
兵庫県多可町	年に数回、キャラバンメイト連絡会を開催。年間の予定や、資料の内容について検討している。
兵庫県佐用町	定例会のみ。
奈良県橿原市	講座対象の幅を広げるための周知活動。
奈良県宇陀市	・RUN伴の参加。 ・ケーブルTVでの放送（今後の予定）。
奈良県田原本町	メイトの連絡会議を月1回程度行っている。今後サポーターを集めての活動は協議中です。
和歌山県	キャラバン・メイトフォローアップ研修の実施。
和歌山県紀の川市	総会を年1回開催している。
和歌山県紀美野町	・徘徊模擬訓練。 ・他イベントに便乗しての認知症啓発。
和歌山県有田川町	・キャラバンメイト研修（フォローアップ）等の企画。 ・認知症サポーター養成講座の活動計画、資料の作成。
和歌山県みなべ町	メイト同士の交流会、勉強会（スキルアップ）。講座で使用する媒体づくり。
鳥取県鳥取市	市の認知症啓発イベントへの協力。
島根県出雲市	年に1度、キャラバン・メイトのスキルアップのための研修会開催。
島根県雲南市	活動状況の共有、情報交換。今後の活動に向けた意見交換。年1回開催。
岡山県津山市	・キャラバン・メイト養成講座。 ・現キャラバン・メイトと新しく養成されたキャラバン・メイトの交流会。 ・研修会の開催。
岡山県笠岡市	・キャラバン・メイトフォローアップ講座…メイトさんを対象にした研修会。 ・認知症リーダー研修…メイトさんのうちリーダーさんを何名か決めており、その方を対象にした研修会。 ・リーダーさんを以下の3つの班に分け、取り組みを推進している。→SOSネットワーク班、認知症ケアパス班、若年性認知症班。 ・リーダーさんのうち、地域密着担当を決め、地域密着拠点推進会議に参加している。
岡山県高梁市	認知症高齢者声かけ訓練。認知症カフェへの協力。
岡山県真庭市	・認知症カフェの運営。H26、1カ所、H27、2カ所オープン。準備中2カ所。・傾聴活動を来春スタートを目指して準備中。

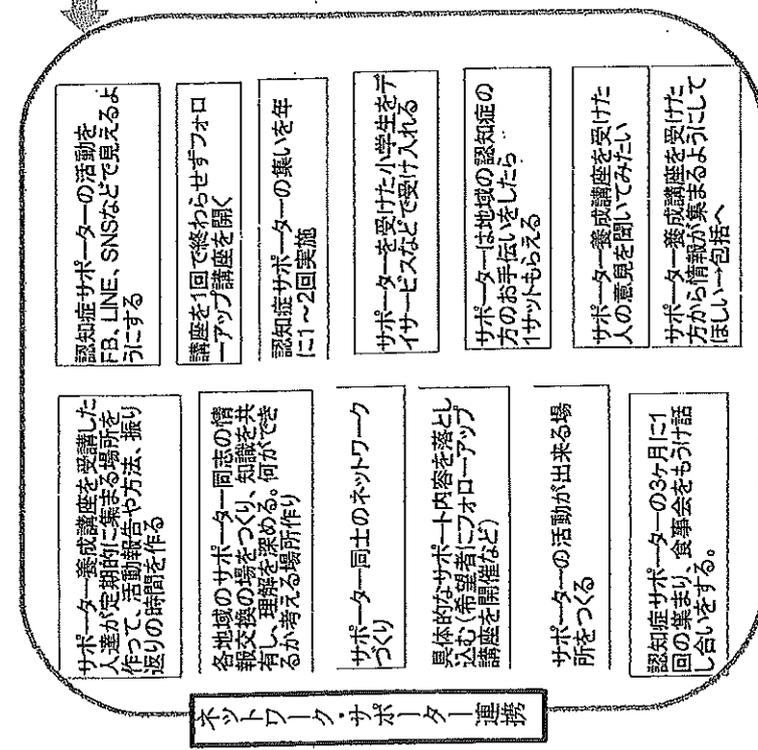
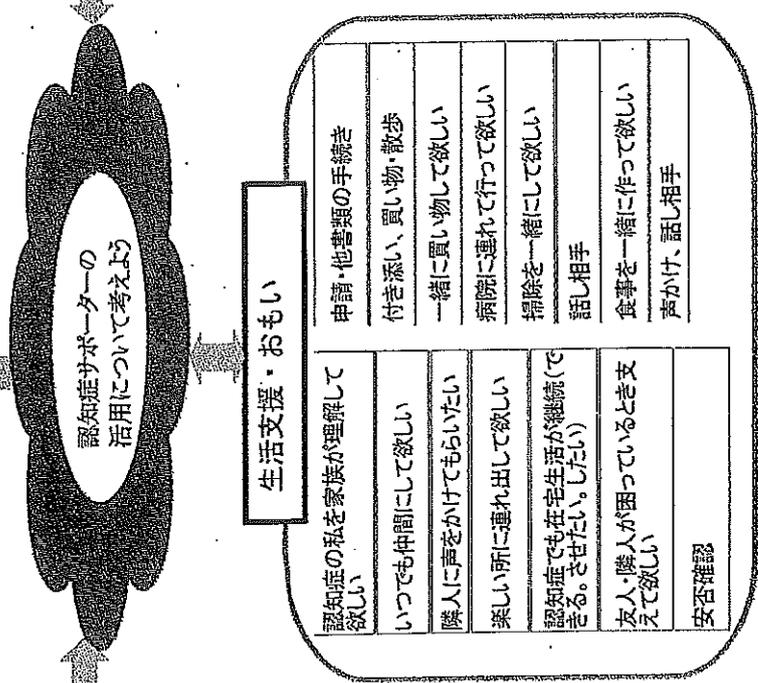
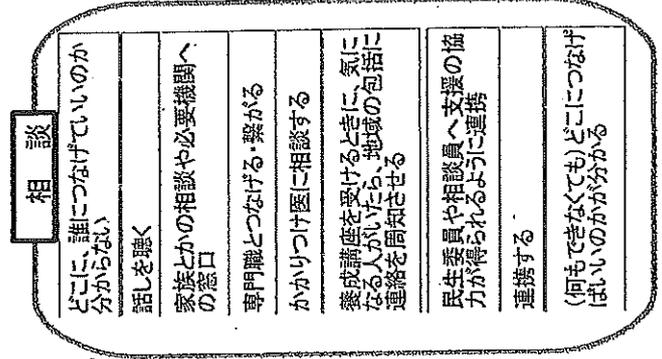
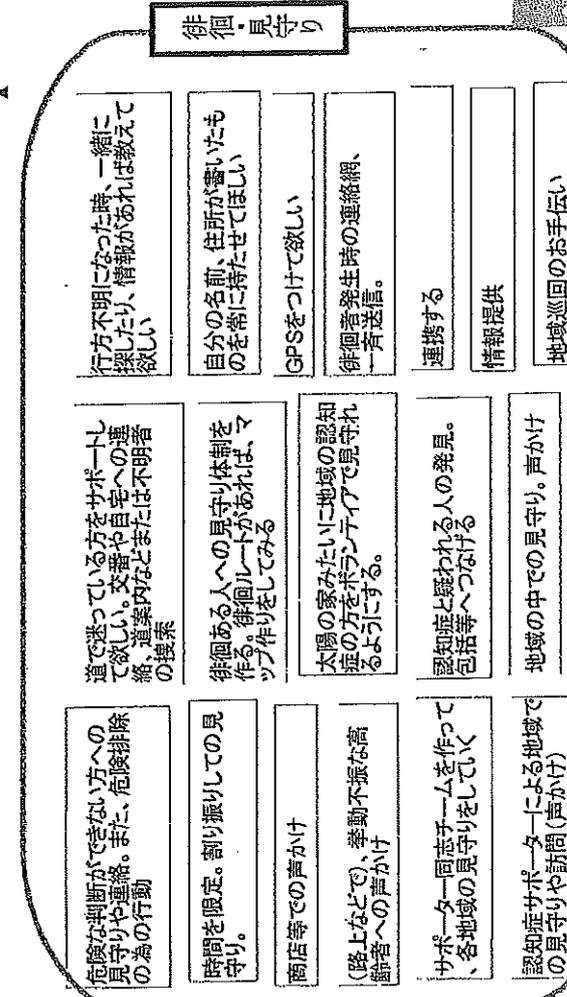
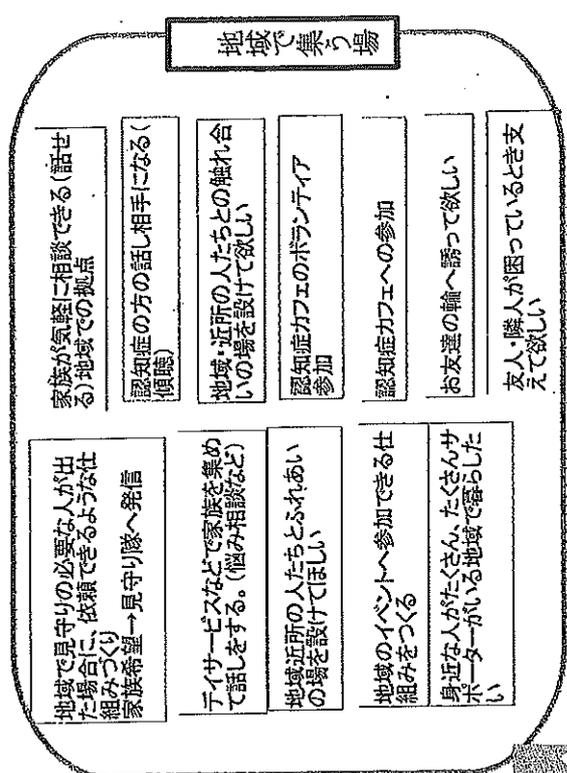
広島県尾道市	(1)認知症カフェの登録。(2)認知症サポータースキルアップ講座の開催。(3)若年性認知症の方への個別支援(見守り、傾聴)。(4)ラン伴への参加・協力。(5)徘徊モギ訓練への参加・協力。(6)キャラバン・メイト養成講座への参加・協力。(7)オレンジ・ネットワーク会議への参加。(8)ケア会議への出席。(9)徘徊ネットワークへの登録の啓発。など。
広島県東広島市	市と協働して、認知症相談会や、普及啓発のためのイベント等に有志として参加し、活動している。
広島県廿日市	認知症関連の講演会について、共催団体への協力を行う。
広島県安芸高田市	フォローアップ研修。
山口県下関市	サポーター養成講座開催に必要な認知症に関する知識習得のための研修会の実施(精神科医師による講話、児童に対する効果的な伝え方の指導・助言、サポーター養成講座をより充実した内容にするための意見交換等)。
山口県萩市	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成講座実施状況報告。 ・各地域活動紹介(情報交換)。 ・スキルアップのための勉強会(医師等による講義、施設見学等)。 ・他市町キャラバン・メイトとの交流会。 ・認知症予防月間の街頭キャンペーン等の広報活動。
山口県和木町	月に1回の連絡会にて、勉強会や情報共有。認知症関連の研修への参加。オレンジカフェ(認知症カフェ)にて、ボランティアとしてカフェの準備。
山口県田布施町	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェの開催。 ・認知症の人やその家族を対象とするサロンの開催または参加。
愛媛県宇和島市	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェの参加・協力。 ・認知症の家族のつどいの開催。
愛媛県四国中央市	約1年に1回以上、キャラバン・メイト連絡会を開催し、グループワークを通して意見交換や活動内容についての情報交換を行っている。また、寸劇披露やビデオ観賞をして活動意欲の向上を図ったり、活動に対する意思確認を行っている。
愛媛県東温市	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師をまねいてのスキルアップ研修。 ・認知症行方不明者捜索訓練(実施予定)。
高知県香南市	今年度、新たに小中学校への講座の計画をしたため、その組立てをメイト同士でグループワークし検討した。
福岡県福岡市	地域の中でのボランティア活動、自主劇団など。DVD作成。
福岡県久留米市	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する介護施設の見学。 ・市の認知症施策に関する勉強など。
福岡県八女市	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラバン・メイト連絡会を年2回開催し、情報交換や教材の使い方、スキルアップについてのグループワークを実施。 ・平成26年度まで年1回認知症市民公開講座を実施。
福岡県大川市	他市キャラバン・メイトを講師に招いて研修会実施。定例会(年4回)で、市の認知症施策の周知や、互いの講座内容報告による意見交換など。徘徊事故防止のための声かけ訓練への協力。
福岡県福津市	各種講座や教室、イベント等の協力をして頂いている。年に5～6回程度連絡会を行っている(市主催)。
福岡県糸島市	・総合、1回/年。・研修会、1回/年。・上記開催前に運営委員会(役員会)。
福岡県志免町	認知症サポーターフォローアップ研修のグループワークのファシリテータ役として参加していただいている。
福岡県桂川町	認知症や傾聴等の講習会に参加してもらい、スキルアップを図っている。
佐賀県唐津市	キャラバン・メイトフォローアップ研修の伝達講習。
佐賀県鳥栖市	H27年度8月に1度顔合わせ程度に開催したのみなので、まだ実施講座の見学等以外の活動はしていない。

佐賀県鹿島市	認知症徘徊声かけ訓練。
佐賀県神埼市	・神埼市の現状について。・活動に対する意見交換会。
長崎県	平成24年度より、市町を対象に認知症サポーター活動拠点支援事業：県単独事業を実施。予定も含め、これまでに5市町が県より受託され実施。
熊本県荒尾市	「キャラバン・メイトの集い」を年1～2回開催している。事務局からキャラバン・メイトへサポーター養成状況の報告や、年度目標を伝え、また、キャラバン・メイト間の連携を図ることで、継続して活動できるようサポートしている。また、「認知症の人を支えるガイドブック」を作成した時には、キャラバン・メイトにも検討委員会に参加してもらった。
熊本県水俣市	「キャラバン・メイト連絡会」の名称、認知症フォーラムの実行委員会のメンバー団体の1つ。
熊本県玉名市	・たまな認知症応援団養成講座講師。 ・中学校ごとにメイト会を立ち上げ、「たまな養成応援団」の活動活性化への企画・活動への協力。
熊本県南関町	・キャラバンメイトフォローアップ研修。 ・認知症ケアパス作成のための会議。
熊本県長洲町	認知症サポーター養成講座の、各キャラバンメイトとの日程、担当割り合て等の会議。
熊本県菊陽町	カフェへの訪問。キャラバン・メイトフォローアップ研修開催。
熊本県山都町	月1回定例会。
熊本県芦北町	・年2回の連絡協議会の開催。 ・県内研修会への参加。
大分県佐伯市	アルツハイマーデーへの参加。
大分県豊後大野市	講座内容の統一、情報交換。年度毎の目標設定や現状報告。
鹿児島県鹿屋市	徘徊模擬訓練の開催。
鹿児島県阿久根市	・認知症の理解を深めるための学習。 ・認知症に関する情報交換。・養成講座の内容について検討。
鹿児島県出水市	サポーターとして、登録されている方を対象に1年に1度、認知症についての理解を深めて頂き、認知症になっても住みやすい地域作りを目指すために「認知症サポーターフォローアップ研修」を開催している。
鹿児島県指宿市	・徘徊模擬訓練の勉強会。 ・意見交換会など(認知症施策や市に対する要請)。
鹿児島県垂水市	徘徊模擬訓練連絡会。
鹿児島県日置市	キャラバン・メイトのスキルアップ研修会は、実施しているが、サポーター養成講座以外の活動は実施していない。
鹿児島県伊佐市	年に1回活動報告や活動の方向性、学習等を行う(今年度から実施)。
鹿児島県始良市	年に1～2回、顔合せを兼ねて研修会や企画会議を開催。
沖縄県那覇市	今後具体的活動については検討予定。
沖縄県浦添市	別紙資料12。
沖縄県名護市	それぞれの活動報告、使用している資料等について情報交換。
沖縄県糸満市	認知症ケアパス作成に向けての情報収集。
沖縄県沖縄市	連絡会を3回／年開催予定(今年度は2回実施スミ)。・実施報告会。・連絡事項。・協力要請→キッズ向けの養成講座、高校生への養成講座、寸劇についての話し合い。

沖縄県浦添市キャラバン・メイト連絡会活動について (アンケート[6]) 別紙1

1. 浦添市キャラバン・メイト連絡会ではCSW、地域包括支援センターも巻き込み、マインドマップツールを使い日常生活圏域ごとに「認知症サポーターを増やしたい」(下記図)や「認知症サポーターを活用しよう」(別紙2)をテーマに、参加者がキーワードをあげ、カテゴリー分類する等を行い、キャラバン・メイトがサポーター養成講座を行う際具体的に展開できるようにしている。
2. 平成27年度から各地域包括支援センターに配置している認知症地域支援推進員(平成27年11月24日キャラバン・メイト受講済)も連絡会へ参加、市内の生活圏域ごとの認知症高齢者の実態を報告するとともに、各生活圏域における活動報告をしている。
3. ネットワークづくりと教育について、劇団「認知症になっても大丈夫だ」が結成され、市内外や企業・学校・行政主催の介護予防月間等の参加者を巻き込み認知症理解とネットワークを意識した活動展開をしている。例えば、企業においては、ワークライフバランスについて取り上げる、他市町村からの依頼では、依頼先の人材育成も視野にいれる。バリアフリーオリンピック(生活圏域単位で年1回行われている介護を応援する総合福祉展で認知症カフェや認知症劇・相談対応を行っている。)への積極的参加を行っている。





4. 自治体内に認知症地域支援推進員が配置されているかどうか

－「配置されている」611自治体の内513自治体がキャラバン・メイト－

自治体内に認知症地域支援推進員が配置されているかどうかをたずねた結果では、「配置されている」が611自治体である。配置されているとした自治体で、認知症地域支援推進員がキャラバン・メイトかどうかの問いへの回答では、「キャラバン・メイトである」が513自治体と84%を占めている。

キャラバン・メイトは、認知症サポーター講座の企画、開催から認知症サポーター等地域住民からの相談を受け、見守りやオレンジカフェの開催・参加等、認知症サポーターの活動においてもリーダー的役割を果たしている。

各地域の課題、必要とされている支援と活用可能な社会資源の詳細を把握しているキャラバン・メイトが、その機能を生かすべく認知症地域支援推進員として登用されていることが推測される。

平成30年度には全市町村への認知症地域支援推進員の設置が義務づけられているが、認知症の人が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、地域ごとの実状に応じた認知症施策、事業の企画調整を担う認知症地域支援推進員であるキャラバン・メイトの存在を最大限に生かすことが、今後の地域ケアの推進の鍵を握っているといえる。

Ⅲ.調査結果を基に

～認知症サポーター資質向上に向けたステップアップ講座教材の作成

調査結果から全国で認知症サポーターが多様な活動を実践している現状が明らかになったが、全国には意欲はあるが、何をしたらよいか検討中である認知症サポーター多いと考えられるため、認知症サポーターが地域の実情に応じて、自分たちにできる活動を自主的に展開するためのヒントを事業実施自治体に提供することにより、認知症サポーターの潜在能力を具体的支援へと結びつけることを後方支援する。

認知症サポーターのステップアップ講座の実施は、認知症への正しい理解をスタート地点とした、誰もが参加しやすい地域のニーズに即した支援活動を自治体が継続していくために有効であると考えられる。

現在、認知症サポーターが必要としている学習内容は、大きく「認知症についての知識をさらに深める」「地域の認知症の人の暮らしに役立つ活動に必要なノウハウ」の二つに分けることができる。

これを踏まえて、当事業において、下記の教材・テキストの作成を行った。

『認知症サポーター ステップアップ講座 教材 1 認知症の理解を深める』

さらに専門的な知識の習得を目指し、認知症サポーターが支援を通してさまざまな認知症の人と接する中で、実際に目の前で起きている症状の原因、その対応のポイントを詳しく紹介する。

『認知症サポーター ステップアップ講座 教材 2 認知症の発症リスクを減らす』

認知症サポーターの関心が最も高い、認知症発症のリスクを少なくする「認知症の予防」について学習する。

『認知症サポーター ステップアップ講座 教材 3 認知症サポーターの活動』

全国各地の認知症サポーターが展開している地域の実情に即した自主的で独創的な活動の中から、他の手本となる先進的な事例を紹介する。

『認知症サポーター育成ステップアップ講座用テキスト』

ステップアップ講座の講師を務めるキャラバン・メイト等の学習用として、上記『認知症サポーター ステップアップ講座 教材 1～3』の指導内容に、ステップアップ講座の運営方法の手引きを併せて収録する。

参 考 資 料

アンケート「認知症サポーター」の活動について

アンケート「認知症サポーターの活動」について

自治体(都道府県・市区町村)事務局のご尽力のもと、認知症サポーターによる実践的な活動が進められています。このたび、下記の通り「認知症サポーターの活動」についてアンケート調査を行います。回答いただいた内容は、平成 27 年度「認知症サポーターキャラバン報告会」での事例発表の参考にさせていただきます。

下記をご記入の上、平成 27 年 11 月 30 日(月)までに必ず返送していただきますようお願いいたします。

なお、このアンケートに記載された活動事例の中で、特に活発に活動している事例に関しましては、ぜひ、平成 27 年度「認知症サポーターキャラバン報告会」優良活動事例応募シートにご記入の上、ご応募ください。

全国キャラバン・メイト連絡協議会

都道府県 または 市区町村名	都・道・府・県		区・市・町・村	
担当部署			担当者	
連絡先	TEL		FAX	
	e-Mail			
	住所	〒		

以下の質問について、該当する番号に○、あるいは記入をお願いします。

〈認知症サポーターの登録〉

[1] 認知症サポーターについて登録制度を設けていますか。

1. サポーター講座受講者全員を登録している

登録制度のしくみを具体的に教えてください。(資料別紙添付可)

2. サポーター講座受講者のうち承諾を得られた人(希望者)を登録している

登録制度のしくみを具体的に教えてください。(資料別紙添付可)

3. 登録制度を設けていない

〈その他〉

[4] キャラバン・メイトの連絡協議会等の組織化についてお答えください。

1. キャラバン・メイト連絡協議会等がある
2. キャラバン・メイト連絡協議会等はない

〈 [4] で 1. 連絡協議会等があるに○を付けた事務局におたずねします。 [5] [6] 〉

[5] キャラバン・メイトの連絡協議会等の規模についてお答えください。

1. 都道府県内組織
2. 市区町村内組織
3. その他 ()

[6] キャラバン・メイトの連絡協議会等で実施しているサポーター講座開催以外の活動について、なるべく具体的にご記入ください。

(資料別紙添付可)

[7] 自治体内に認知症地域支援推進員が配置されていますか。

1. 配置されている
2. 配置されていない

〈 [7] で 1. 配置されているに○を付けた事務局におたずねします。 〉

[8] 配置されている認知症地域支援推進員は、キャラバン・メイトですか。

1. キャラバン・メイトである
2. キャラバン・メイトでない

◇◇ご協力ありがとうございました◇◇

認知症サポーター等の資質向上に関する調査研究事業
報告書

平成 27 年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

平成 28 年 3 月

特定非営利活動法人 地域ケア政策ネットワーク

〒162-0843

東京都新宿区市谷田町 2-7-15 近代科学社ビル 4 階

TEL 03-3266-1651 FAX 03-3266-1670